

2018年度 事業報告書

(各拠点)

社会福祉法人十字の園

法人本部 2018 年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人の基本理念『夕暮になっても光がある』（聖書：ゼカリヤ書 14 章）と『人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。』の共有、醸成を図るため、第 2 アドナイ館の毎朝の礼拝に法人本部職員が参加している。法人研修、十字の園大会にも参加し、理念の共通理解に努めた。

B. 運営方針について

2018 年 4 月の介護報酬改定は、0.54% プラス改定であったが、通所介護や訪問介護においては厳しい改定となった。高齢者の自立支援を応援する介護現場の仕組みづくりの重要性が増している。厳しい経営環境が続く中、超低金利の金融情勢が続いているため、福祉医療機構からより低利の銀行融資に借り換えを実行し、支払い負担の軽減を図った。年度半ばで、理事長から退任交代の意向が示されたため、トップ人事、執行及び組織体制の検討が行われ、次年度の新理事長と執行体制が決定された。内部管理体制の整備については、基本方針の修正見直しが行われ、規程の策定、見直し等の課題は、次年度継続して取り組むこととなった。浜松地区の 3 拠点を一体経営することが決定したため、本部と地区事務の体制変更を検討し次年度から新体制で業務を進めることになった。又、働き方改革関連の法改正により、同一労働同一賃金、有休 5 日取得義務化等に対応する規程改定、運用変更が喫緊の課題となった。

II. 事業計画の達成状況

1. 創立の精神（理念）を継承していく

- ・法人の歴史・精神を理事長メッセージ、研修、広報誌、ホームページ等により情報発信し理念の浸透を図った。
- ・日々の聖句日めくりカレンダーを毎日確認し、毎朝礼拝に参加してキリスト教精神を学んだ。

2. 内部管理体制と将来に向けた経営組織の構築

- ・現況報告の改訂には対応したが、法人ホームページは見直し検討中で次年度の継続課題とした。
- ・内部管理体制の整備
 - ① コンプライアンス体制 統括理事・委員会は未整備、ガイドライン・規程の改訂原案が作成され検討中。
 - ② 相談・提案窓口にも内部通報も受け付ける体制としたが、さらに周知・浸透が必要。顧問弁護士・労務士事務所での受付実績あり、本部と情報連携し対応した。
 - ③ 情報公開事務取扱規程を策定、施行した。文書管理規定は、原案作成し検討継続。
 - ④ リスク管理体制 規程の原案は策定され検討継続、統括理事・委員会は未整備
 - ⑤ 適切な経営判断を行う体制 稟議規程・起案申請書は原案作成し検討継続。
 - ⑥ 職務分掌は未作成 新執行体制づくりの中で行動規範を策定しその後に取り組むこととした。
 - ⑦ 監事への報告体制は、検討できなかった。
- ・浜松十字の園改修計画の進展はなく、次年度新体制のもとで再検討する。
- ・法人管理会議、部門、プロジェクト、各職務部会へ参画し連携することができた。

- ・法律・労務・会計事務所とは必要に応じ連携し、問題解決できた。
- ・監査法人と連絡・調整をおこない、適切な会計処理を行った。

3. 人材の育成・確保

- ・人材育成制度改革プロジェクトに参画し、評価制度の運用事務を担当した。施設・職場による評価の不均衡は有るが、次世代人材育成を前進させた。
- ・人材採用プロジェクトの事務局として職員採用活動の拡充、人材の確保の為の環境整備（住居等）を行った。新卒介護職採用；5名
- ・ストレスチェックの全施設で実施したが、結果をどう活かすかが課題である。外部機関による職場巡回等を検討していきたい。
- ・65歳定年制度（60才からエルダー職）を開始した。
- ・法人本部職員の資質向上のため、外部研修（社会福祉主事認定、会計実務中級コース等）に参加した。
- ・資格取得を支援するための補助・奨学金の規約を研修部門で検討した。
- ・浜松地区一体化、地区事務統合に向けて職員配置を検討し、次年度体制を決定した。
- ・法人本部の職務分掌の見直しは、浜松地区統合に合わせて再検討し、次年度の課題とした。
- ・役職登用基準は、人材育成プロジェクトで継続検討していく。

4. 施設の健全な経営と中長期計画の具体的な構想作り

- ・日常業務の中で、情報共有と事務レベルの均等化を目指した指導・支援を行い、各施設事務職員の能力向上を図った。
- ・各施設の内部監査、監事監査に協力し監査結果を会計・業務改善に活用した。
- ・福祉医療機構から低利の銀行へ借換を実行し、赤字拠点の財務基盤の安定を図った。
- ・新たな財源確保の方策については検討できなかった。
- ・平成31年度4月からの一般事業主行動計画を立案、決定した。
- ・新たな無料または低額の福祉サービス提供については、検討できなかった。
- ・法定雇用率を上回る障がい者雇用は達成しているが、新たな障がい者枠での雇用実績はなかった。雇用期間中に障がい認定された職員の雇用は継続している。

5. 職員状況（2018年度末）

理事長（常勤）1名、本部長（常勤）1名、主任事務員（常勤）2名、事務員（常勤）2名

6. 資金収支、財務状況

（1） 資金収支予算達成状況

（単位；千円、千円未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	4,164	22,402	58,240	58,428	△54,076	△36,026
施設整備等による収支	0	0	1,465	1,464	△1,465	△1,464
その他活動による収支	107,321	128,534	51,100	84,073	56,221	44,461
当期資金収支差額					680	6,970

※当初予算と実績差異の主な内容

事業活動収支；経常経費寄付金収入が 18,115 千円となり予算を大きく上回った。
その他活動収支；伊豆高原借換の弁済補償のため施設整備等積立資産を 15,000 千円取り崩し、拠点区分繰入金として支出した。寄付金収入の増額により施設整備積立資産支出を 18,000 千円増額した。

(2) 設備投資及び積立金の状況

- ・施設整備積立資産として 18,000 千円増額して 30,000 千円を積み立てた。

(3) 借入金及び借入償還の状況・・・該当なし

7. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	3 件	1,040,000 円
遺族	1 件	5,000,000 円
一般	10 件	10,065,000 円
職員	2 件	10,000 円
役員	1 件	2,000,000 円
合計	17 件	18,115,000 円

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 新執行体制のもとで内部管理体制基本方針に基づき体制、規定等を整備する。
2. 浜松事務課の運営を軌道に乗せ効率化を図る。
3. 事務局長、課長による本部管理体制の確立（世代交代を踏まえ）。
4. 法人及び本部の財務基盤の確立。

特別養護老人ホーム 浜松十字の園 2018 年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

近隣教会の牧師や教会員、引退牧師の協力により、月曜日から金曜日まで毎朝礼拝を行い、語られる聖書の言葉を通して、理念の土台であるキリスト教の精神に触れることができた。

B. 運営方針について

1. 利用者一人一人が安心して暮らすことの支援をする。

- ・利用者と会話をする機会を増やすことに心掛け、そこで伺った希望（外出、食事、趣味など）を実現し、生き甲斐・やり甲斐につなげる声かけや支援を行った。
- ・医療機関を受診した事故は 21 件あった（前年度 18 件）。事故原因と対策の検討や周知はその都度行ったが、件数が減らない現状から検討や周知の甘さが推測される。主因者の行動だけでなく設備や職場の風習なども視野に入れて検討すると共に情報共有を深める取組を進める。また、対策には受傷者やその家族の心情に配慮した関わり方も含めて検討していく。
- ・利用申込みを断らない姿勢で困難事例にも対処したが、医療ニーズが高い方の受入調整に難しさがあり、断るケースがあった。姿勢の共有はできたため、体制整備を次年度も継続する。
- ・省エネ化推進事業補助金を活用した空調・照明設備の更新と防水断熱化工事を 6 月に完了し、心地よい環境を整えることができた。

2. 職員同士が共に育つ力を身につける。

- ・各職種の役割を再確認するためのミニ勉強会を各ユニット会議で各職種の代表者が講師になり、それぞれの専門性を共有した。これがきっかけで、互いに相談や意見を伝えやすくなった。
- ・限られた人員で安心安全な入浴介助を行うため 2 階浴室のレイアウト変更やリフト浴槽設置を介護職員が中心になり、リハビリや事務など他職種で検討し、工事实施し、入浴介助に当てる人員を 1 名減らしながらも安全に介助できる環境を整えた。

3. 地域のニーズに応え経営体力の強化に努める。

- ・浜松地区 3 拠点の統合に向けて、それぞれの課長が主体的に毎月会議を行い施設長も同席し、各拠点の課題を共有し連携を深める方策を検討してきた。10 月 19 日に 3 拠点合同で地域に向けた施設見学会を開催し、連携して地域に貢献していく意識を深めた。2019 年 4 月に組織再編を実行した。
- ・施設改修計画は地区全体に影響する事案のため、2018 年度は組織再編に重点を置き、改修計画の検討は次年度へ先送りした。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況・実績

1 介護老人福祉施設

- ・介護：オンライン動画研修システム委員会を組織し、毎月発信する研修素材の検討と受講結果の確認を行った。各委員の声かけもあり受講率はほぼ 100%だった。新任研修の素材にも活用できた。／福祉機器等の導入は 2 階浴室改修を実施し、担当職員の削減と入浴介助の身体的負担削減につなげることができた。ロボットについては導入施設を見学し、導入効果のイメージを持てた。
- ・相談員・施設ケアマネ：入居時面接に多職種で対応し、入居者・家族を含め相互に情報共有できた。

／短い期間に退居者が続くことがあり、スムーズな入居へ繋げられない時もあった。／ケアプランの形骸化を防ぐため見直し作業を行ってきたが、次年度も継続していく。

- ・看護：新加算取得の取組を多職種連携で進め、実施につないだ。算定要件は看護室会議でも共有し、理解を深めた。入居前面接担当制を廃止し、全ての看護職員が対応したことにより、入居者や家族の思いを直接見聞きし、伝えることで、より具体的な情報を事前に共有できるようになった。
- ・リハビリテーション：各ユニット会議でリハビリ職員の役割を自らが伝えたことにより、リハビリの具体的な個別対応がスムーズにできるようになった。新加算取得の取組にリハビリ職員も加わったため、必要な対応を連携して取り組むことができた。
- ・食事：栄養改善加算は効果に即効性がなく費用もかかるため家族や居宅ケアマネの理解が得られず実施に至らなかったが、体重測定結果からの助言は継続していく。／おやつセレクトはデイサービスで実施できたため、ショートステイでも展開を進める。／給食委託業者選定を実施した。
- ・総務：省エネ化工事の実施により、電力デマンド値は目標 139kW に対し 132kW に抑えた。／勤怠管理システム更新は働き方改革関連法実施に伴い地区全体で取り組むことになり次年度へ延期した。／地域ボランティアの新規受入が増えたが、円滑に対応できた。

2 短期入所生活介護

- ・透析通院の利用者受入を看護職員と連携し実施できた。／興味関心シートの活用を試みた。定期利用の方には有効だったが、期間が空いてしまう方には十分に対応できなかった。日々の利用者数の変動により対応が難しい時もあるため関わり方の見直しを継続していく。

3 通所介護

- ・送迎時の家族からの伝言をメモにして共有し、迅速な対応や連絡漏れの防止につながった。／提供時間が延びたため帰宅前の利用者との会話時間を充実させ、興味関心を引き出し、レクやリハビリに展開した。／業務内容や分担を見直し、事務作業担当とケア担当を輪番にして、それぞれに集中できる環境を整えた。／栄養士と連携し、おやつセレクトや体重とBMIの年間変化を栄養面での参考資料として家族や担当ケアマネに情報提供した。

4 診療所

- ・入居者の重度化による対応に追われ、地域ニーズの検討は行えなかった。／委託医師の契約期間が2019年度末であり後任者の目処が立っていない。次年度中の確保に努める。

B. 利用実績

(職員数は2018年度末月現在の数とする)

	特 養	短 期	通 所	事業活動収入計 職 員 数 合 計
利用定員	120 人	20 人	22 人	—
利用者延数	41,950 人	6,244 人	5,206 人	—
1日平均利用者数	114.9 人	17.1 人	17.0 人	—
稼働率、稼働指数	95.8%	85.5%	77.3%	—
稼働日数	365 日	365 日	306 日	—
単価（一人一日当たり）	11,415 円	10,873 円	9,355 円	—
収入(千円)	478,848	67,889	48,702	603,015
職員数（常勤換算）	69.8 人	8.3 人	8.7 人	86.8 人

C. 資金収支、財務状況

1 資金収支予算達成状況

(単位：千円、未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	603,701	603,015	573,874	569,164	29,827	33,850
施設整備による収支	92,400	91,941	138,190	143,944	△45,790	△52,003
その他活動収支	38,600	40,177	22,630	21,953	15,970	18,223
当期資金収支					7	71

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・収入について：特養は目標稼働率 99.0%に対し 95.8%で 638 万円減。短期は目標 82.0%に対して 85.5%で 518 万円増、通所は 42 万円増。寄付金 144 万円減、雑収入 135 万円増。省エネ補助金収入 85 万円減、診療所拠点からの繰入れ 100 万円増。
- ・支出について：退職や身分変更等により人件費 430 万円減。省エネ効果により水道光熱費 249 万円減。設備更新により消耗器具備品費 189 万円増。修繕費 260 万円増。保守契約見直しにより保守料 162 万円減。省エネ化工事費の消費税額見落としにより 1,010 万円増。器具備品固定資産取得見直しにより 350 万円減。

2 事業活動計算書の推移

(単位：千円、未満切り捨て)

	2018 年度	2017 年度	2016 年度	2015 年度	2014 年度
サービス活動収益計	596,593	587,882	577,844	587,583	690,464
サービス活動費用計	586,332	585,773	580,119	573,704	700,927
サービス活動増減差額	10,261	2,109	△2,275	13,878	△10,463
経常増減差額	12,892	4,272	△599	15,608	△7,302
特別増減差額	△14,820	△12,960	△5,180	△86,409	△19,044
当期活動増減差額	△1,927	△8,688	△5,779	△70,800	△26,346

(2017 年との差額が大きい要因)

- ・報酬改定によりサービス活動収益計が 8,711 千円増額となり、経常増減差額にも影響している。
- ・診療所拠点からの繰入れ 1,000 千円増、本部拠点への繰入れ 2,860 千円増により、特別増減差額 1,860 千円減となり、経常増減差額を加えた当期活動増減差額は 6,761 千円増となった。

3 設備投資及び積立金の状況

- ・固定資産取得：省エネ改修 136,553 千円、厨房機器 892 千円、業務用洗濯機 1,556 千円、リフト浴槽 940 千円
- ・施設整備積立取崩 31,000 千円、設備整備積立取崩 3,000 千円、施設整備積立 0 千円

4 借入金及び借入金償還の状況

- ・元金償還 3,993 千円、元金補給 680 千円、年度末残高 44,183 千円
- ・利息支出 309 千円、利子補給 1 千円
- ・施設整備借入金収入 50,000 千円、施設整備補助金収入 41,261 千円
- ・新規借入金：50,000 千円（省エネ改修のため民間金融機関より借入）

Ⅲ. 対処すべき課題

- 1 浜松地区組織再編の円滑な移行
- 2 チーム力の向上とケアの質の向上
- 3 健全経営への取り組み

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2018年	2017年
入居者数	男	32人	30人
	女	85人	89人
	計	117人	119人
利用日数	男	10,529日	10,681日
	女	31,421日	32,383日
	計	41,950日	43,064日
平均入居期間	男	3.02年	3.02年
	女	3.05年	3.09年
	計	3.04年	3.08年
最長入居期間	男	22.00年	21.00年
	女	18.02年	19.10年

区分		2018年	2017年
平均年齢	男	81歳	89歳
	女	88歳	88歳
	計	86歳	86歳
最高年齢	男	96歳	96歳
	女	104歳	103歳
最低年齢	男	66歳	65歳
	女	66歳	65歳
出身地域	圏内	114人	117人
	圏外	3人	2人
	県外	0人	0人
平均介護度		3.41	3.67

区分		2018年	2017年
新入居者数	男	15人	12人
	女	29人	22人
	計	44人	34人
退居者数	男	13人	12人
	女	33人	20人
	計	46人	32人
入院者数	男	8人	9人
	女	31人	17人
	計	39人	26人
入院日数	男	147日	111日
	女	472日	278日
	計	619日	389日

入居者の介護度区分

区 分	2018年	2017年
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	5人	3人
要介護度2	15人	12人
要介護度3	43人	38人
要介護度4	35人	40人
要介護度5	19人	26人

入居前住居

区 分	2018年	2017年
自 宅	27人	24人
病 院	8人	4人
老 健 施 設	8人	5人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	1人
他 施 設	1人	0人

退居者内訳

区 分	2018年	2017年
死 亡	42人	30人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	3人	2人
他施設へ転出	1人	0人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年度	2017年度
短期入所生活介護事業	延 人 数	522	493	470	522	577	572	601	573	494	498	414	508	6,244人	5,854人
	一 日 平 均	17.4	15.9	15.7	16.8	18.6	19.1	19.4	19.1	15.9	16.1	14.8	16.4	17.1人	16.0人
	営 業 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
通所介護事業(一般型)	延 人 数	424	433	468	445	436	418	461	439	438	398	399	447	5,206人	5,122人
	一 日 平 均	17.0	16.0	18.0	17.1	16.1	17.4	17.7	16.9	17.5	16.6	16.6	17.2	17.0人	16.5人
	営 業 日 数	25	27	26	26	27	24	26	26	25	24	24	26	306日	310日

Ⅴ. 職員の状況

職種		配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長		1	0	1								0	0
事務員		4	0	1		3				1		0	-1
相談員		2	0	1		1						0	0
介護支援専門員		2	0			2						0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0									0	0
	介護職員	42	16	20	1	22	15	2	5	7		-5	5
	看護職員	6	1	2		4	1	1		1	1	0	-1
	機能訓練職員	2	3	1	2	1	1	1			3	1	-3
栄養士		2	0			2		1			1	1	-1
調理師・員		0	0									0	0
医師		0	4		4				1	1		-1	1
その他		0	13		1		12	1	1	1	8	0	-7
小 計		61	37	26	8	35	29	6	7	10	14	-4	-7
在宅事業	通所(一般)	5	3	2	2	3	5		1		1	0	0
	小 計	5	3	2	2	3	5	0	1	0	1	0	0
合 計		66	40	28	10	38	34	6	8	10	15	-4	-7

＊現員は2019年3月31日現在。就退職は2018年度内増減。

Ⅵ. 寄付金収入

区 分	件数	寄付金額
入 居 者	4件	160,000円
入居者家族	3件	40,000円
遺 族	6件	390,000円
在 宅	1件	20,000円
一 般	31件	247,795円
業 者	0件	0円
職 員	13件	245,000円
役 員	1件	50,000円
合 計	59件	1,152,795円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

総合福祉施設 御殿場十字の園 2018 年度事業報告

I. 総 括

A. 理念の継承、精神的基盤について

平日の朝の礼拝を御殿場教会のご奉仕や数名の職員が順番で担い、祈りと感謝をもって一日を始められた。また、施設機関紙の発行や法人研修への積極的な参加、十字の園大会の当年度テーマ「キリスト教福祉ってなに」に対する取り組みなどを通し、理念の共有、醸成を図り共に生きる地域社会を目指し、一人ひとりを大切にしたいサービスの充実に努めた。

B. 運営方針について

1. 利用者一人一人を大切に、その人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。

清潔かつ安全で居心地の良い環境を目指し、居室の壁紙の張替えは昨年度に引き続き行って全室完了した。また、施設正面玄関及び西玄関のタイル等補修工事を実施した。

2. 多様なニーズに対し断らないワンストップ で対応できる拠点施設として、総合的に支援していく。

「断らない」をモットーにして、全事業所と部署が連携し、困難事例を含め対応した。また、地域包括支援センターを御殿場市より委託を受け中学校区に 1 か所の設置となるよう 2 か所目を開設し、地域の総合相談窓口としての機能強化を図った。

3. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高め合う。

介護福祉士の資格取得のための実務者研修や喀痰吸引等研修、認知症実践者研修等に順次参加し、また、オンライン動画研修の新規導入や施設内の階層別研修を引き続き実施し、専門性や組織力の向上に努めた。

4. 安定した経営基盤を構築する。

施設建物の借入金が完済し、今後の大規模修繕や施設、地域の課題解決に向け計画的に積立等行えるようになった。

5. 2025 年を見据えながら施設や地域の課題に向け取り組む。

地域包括支援センターの増設に加え、懸案であったサテライト型ひだまりデいの建物の老朽化に対しては、次年度より本体の通所介護事業所に統合するよう準備した。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設：新たに居室管理チェック表を作成し、利用者一人一人に合わせた清潔で居心地の良い居室の環境づくりに努めた。また、ユニットごとに質向上委員を選任し、それぞれの課題に対し研修を行い介護の質や専門性の向上に努めた。
2. 短期入所生活介護：送迎時や連絡帳等を通じ家族と情報交換してニーズを把握し在宅生活の支援に努めた。また、スタンディングバーを殆どの居室に設置し転倒防止を図った。
3. 通所介護（通常規模、サライト）：建物の老朽化のためサテライト型ひだまりデいを廃止し、本体の通所介護センターと統合するよう準備を行い、次年度より利用時間帯を増やすなどさらに多様なニーズに応えられるようになった。
4. 訪問介護：定期会議や職員面接を行い風通しの良い職場づくりを目指し、また、情報共有や研修を行い資質向上に努めた。ニーズを断らないための体制確保については、登録ヘルパー 1 名が年齢的な理由で退職されたものの非常勤職員 1 名が常勤となり体制確保に努めた。
5. 居宅介護支援：職員 1 名を増員するも地域包括センター開設に伴う職員異動や 11 月に管理者が体調不良により傷病休暇され、新規利用に十分応えきれず、担当の調整等にも苦慮した。2 月より傷病休暇から復帰され、少しずつ新規利用が増えるなど安定してきた。
6. 地域包括支援センター：8 月に事務所の新規開設ができ、また、従来の事務所の増改築をして相談しやすいよう環境整備し、職員体制も 1 か所 5 人体制から 2 か所 8 人体制（各包括 4 人配置）となり、総合相談窓口として充実強化が図られてきた。

7. 認知症対応型通所介護：認知症介護実践者研修や管理者研修に参加するなど認知症に関する専門性の向上に努めた。また、利用者家族や他部署、事業所職員と連携し、その人らしい生活が継続できるよう支援した。
8. 認知症対応型共同生活介護：「注文を間違える料理店」に2名の利用者とともに参加し、認知症の理解促進を図る良い機会となった。また、近隣の散歩や地域行事等への積極的な参加などを続け地域に根付いたホームを目指し取り組んだ。

障害者自立支援事業

（介護給付）

1. 居宅介護・同行援護：年齢の若い利用者の生活援助などのニーズが増えてきたが、相談支援事業と連携し、一人一人の障がいの状況等について理解を深めながらその人らしい暮らしが継続できるよう支援した。同行援護では病院受診だけでなく、散歩や余暇活動の支援などを行い、本人の活動範囲の拡大や社会参加につながられた。
2. 障害者短期入所：安心して利用できるよう一人一人の障がいやニーズに合わせてながら支援に努めた。

（地域活動支援）

1. 地域活動支援センター：一日一善（利用者の善いところ、できることを発掘）を標語に掲げ、職員が利用日ごとに目標を設定し、またその日の利用後には評価を行いながら常により良い支援に努めた。
2. 移動支援事業：障がい者相談支援事業所等と連携しながら円滑な通院介助や外出支援に努めた。
3. 相談支援事業：御殿場小山自立支援協議会の運営事務局を担い、福祉や障がい者の理解を広げるため市内の高校生を対象にNHK手話通訳士（中野佐世子氏）を講師に招き福祉入門の研修を行った。また、65歳以上の方は原則介護保険サービスとなるが、一人一人の障がいやニーズに合わせてながら必要な支援が提供されるよう連絡調整等を行った。

その他事業等

1. 診療所：入所者のレクリエーションや創作活動などにも参加しながら利用者との関わりを深め状態変化の早期発見等に努めた。また、入所要件が要介護3以上になりご逝去される方が比較的多くあったが、家族とコミュニケーションを取りながら医師や介護職と連携し21名の方を施設で看取らせていただいた。感染症対策については、インフルエンザが一部のフロアで集団感染してしまったものの重篤する利用者はなく早期に回復し、また、他のフロアや事業所への感染拡大は防げた。
2. 給食：美味しく安全に経口摂取が続けられるよう定期会議や個別会議を通じながら多職種と連携し利用者の状態変化に臨機応変に対応するよう努めた。食事の際に委託側栄養士とユニット訪問し、食事の状況のさらなる共有等を目指したが、時間的に十分できなかったため、次年度から改善していく。
3. 介護タクシー事業：他事業所で対応が難しかった困難事例の受入れを積極的に取り組んだ。
4. 介護初任者研修開校：地域の介護力の向上等を目指し、介護初任者研修を開校し6名が修了された。
5. ボランティア受け入れ：延べ1,838人のボランティアに協力頂け、サービスの向上につながった。
6. 広報活動：ホームページを随時更新、機関誌を3回発行、事業所毎に新聞を定期発行した。

B. 利用実績

	特養	短期入所	通所介護	サテライト 型通所介護	認知症対応 型通所介護	訪問介護	居宅介護支 援
利用定員	107人	11人	35人	10人	12人		
利用者延数	38,362人	3,507人	8,920人	1,974人	3,063人	4,877時間	2,560
一日平均利用者数	105.1人	9.6人	24.6人	7.7人	9.9人	13.4時間	213.3件
稼働率、稼働指数	98.2%	87.3%	70.2%	77.1%	82.9%		
稼働日数	365日	365日	363日	256日	308日	365日	12ヵ月
単価（一人一日当たり）	11,430円	16,036円	8,873円	8,941円	12,429円	4,067円	15,836円
収入（千円） ※	438,485	56,239	79,144	17,650	38,071	19,834	40,539
職員数（常勤換算）	68.21人	6.75人	10.05人	3.09人	5.79人	5.12人	6.3人
	地域包括支 援センター	地域活動支 援センター	障がい者 短期入所	障がい者 居宅介護	同行援護	障がい者 移動支援	障がい者 相談支援
利用定員		15人					
利用者延数		2,922人	237人	769時間	742時間	301時間	378件
一日平均利用者数		11.4人	0.6人	2.1時間	2.0時間	0.8時間	1.0件
稼働率、稼働指数		75.8%					
稼働日数	365日	257日	365日	365日	365日	365日	365日
単価（一人一日当たり）		7,983円	18,850円	4,010円	3,819円	3,052円	24,078円
収入（千円） ※	56,617	23,327	4,468	3,084	2,834	919	9,101
職員数（常勤換算）	8人	4.52人	1.5人	0.77人	0.74人	0.3人	1人
	介護タク シー	グループ ホーム	事業活動収 入・職員数 合計	※通所介護の定員は平日35人、土曜日25人、日曜15人で、 表内の稼働率は35人定員として計算。平日のみの稼働率は 85.4%。			
利用定員		18人					
利用者延数	1,936回	6,456人					
一日平均利用者数	5.3回	17.7人					
稼働率、稼働指数		98.3%					
稼働日数	363日	365日					
単価（一人一日当たり）	790円	13,529円					
収入（千円） ※	1,530	87,342	879,184	※収入は介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入			
職員数（常勤換算）	0.4人	15.2人	137.74人				

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

（単位；千円、未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	896,982	885,734	823,861	799,071	73,121	86,662
施設整備による収支	6,965	7,004	73,933	67,606	△ 66,968	△ 60,602
その他活動による収支	22,154	19,203	27,652	36,586	△ 5,498	△ 17,383
当期資金収支					655	8,677

注1：事業活動による収入は、施設入所者の入院や入退所の増加、居宅介護支援事業所の職員の傷病休暇に伴う利用調整による件数の減少、通所や訪問サービスの利用が目標に満たなかったため予算比で△11,248 千円となった。

注2：事業活動による支出は、ニーズ増に対応するため居宅の介護支援専門員や訪問介護員などの職員の増員を計画したが十分できなかったことなどにより、人件費が予算比で△19,895 千円と大きく、支出の予算比は△24,790 千円となった。

2. 事業活動計算書の状況

（単位；千円、未満切捨て）

	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
サービス活動収益計	880,792	858,293	837,336	837,391	814,146
サービス活動費用計	820,059	800,421	791,323	789,374	781,151
サービス活動増減差額	60,732	57,871	46,013	48,017	32,994
経常増減差額	60,702	57,864	45,690	48,172	32,607
特別増減差額	△ 21,214	△ 27,216	△ 19,810	△ 29,268	9,163
当期活動増減差額	39,488	30,648	25,879	18,904	41,771

注1：サービス活動収益は、地域包括支援センターの増設に伴う受託費の増加（18,205 千円）や介

護報酬のプラス改定などによって前年比で 22,499 千円（2.6%）増加した。

注 2：サービス活動費用は、給与等の自然増や地域包括支援センターの職員の増員などによって人件費が昨年比で 12,705 千円増となり、また、新規開設に伴う事務消耗品費の増加や光熱費、修繕費なども増え、計 19,638 千円（2.5%）増加した。

注 3：サービス活動増減差額は、昨年比で 2,861 千円（4.9%）の増加となった。

3. 設備投資及び積立金の状況

- ・ 固定資産取得等：包括車両 3 台購入 2,360 千円、通所送迎車両 1 台買替 1,521 千円、通所リフト車 1 台買替（リース）3,120 千円、身障デイ天井走行リフト更新 999 千円、仲町包括事務所空調設備更新 388 千円、仲町包括事務所改修工事 1,735 千円、さくら通り包括建物取得 15,982 千円、低床ベッド 1 台購入 175 千円、ミキサー器買替 169 千円、清拭車買替 203 千円、配膳車買替 246 千円、包括パソコン 4 台購入 453 千円
 - ・ 高額修繕等：厨房配膳車・冷蔵庫修理 251 千円、厨房排水修理 124 千円、3 連立体炊飯器修理 168 千円、厨房排気ファン修理 243 千円、業務用コンロ五徳スパンサー交換 101 千円、浄化槽自動スクリーン交換 306 千円、便洗機修理 187 千円、非常用放送用バッテリー交換 106 千円、玄関タイル等補修工事 811 千円、エレベーター制御ユニット交換 1,080 千円
 - ・ 積立・取崩等：施設整備積立取崩 15,000 千円、施設整備積立 10,000 千円、拠点間繰入 24,254 千円
- ### 4. 借入金及び借入償還の状況
- ・ 借入金：新規借入なし
 - ・ 当期償還金 42,676 千円、元金補助金 6,965 千円、年度末残高 110,651 千円

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 特殊浴槽 2 台（1999 年導入）及び非常用発電機（1989 年導入）について経年劣化のため更新
2. 業務の効率化や円滑化等のため介護記録ソフト等の見直し
3. 建物外壁の塗装工事（1999 年建物全面改築）
4. 特養の居住環境の整備や多床室についてプライバシー確保のための改修等

Ⅳ利用者の状況(2017年度)

施設名 御殿場十字の園

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2018年度	2017年度
入居者数	男	29人	28人
	女	77人	76人
	計	106人	104人
利用日数	男	10,686日	10,668日
	女	27,676日	28,195日
	計	38,362日	38,863日
平均入居期間	男	4.1年	4.5年
	女	3.6年	4.7年
	計	3.7年	4.6年
最長入居期間	男	17.1年	16.1年
	女	21.6年	21.1年

区分		2018年度	2017年度
平均年齢	男	78.3才	78.3才
	女	88.3才	87.6才
	計	85.7才	85.0才
最高年齢	男	100.5才	96.5才
	女	103.0才	102.0才
最低年齢	男	63.2才	62.2才
	女	65.2才	68.0才
出身地域	圏内	86人	83人
	圏外	14人	16人
	県外	6人	5人
平均介護度		3.65	3.62

区分		2018年度	2017年度
新入居者数	男	11人	4人
	女	29人	15人
	計	40人	19人
退居者数	男	10人	5人
	女	28人	17人
	計	38人	22人
入院者数	男	12人	3人
	女	23人	13人
	計	35人	16人
入院日数	男	270日	63日
	女	402日	427日
	計	672日	490日

入居者の介護度区分

区 分	2018年度	2017年度
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	7人	6人
要介護度2	9人	13人
要介護度3	29人	27人
要介護度4	30人	27人
要介護度5	31人	31人

入居前住居

区 分	2018年度	2017年度
自 宅	27人	15人
病 院	6人	2人
老 健 施 設	3人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	1人	2人
他 施 設	3人	0人

退居者内訳

区 分	2018年度	2017年度
死 亡	29人	18人
帰 宅	1人	1人
病院へ転出	8人	3人
他施設へ転出	0人	0人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年度	2017年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	257	263	305	302	284	303	301	255	281	335	302	319	3,507人	3,617人
	平均人数	8.6	8.5	10.2	9.7	9.2	10.1	9.7	8.5	9.1	10.8	10.4	10.3	9.6人	9.9人
通所介護事業(一般型)	利用延人数	635	704	749	827	818	760	790	748	742	673	689	785	8,920人	8,679人
	平均人数	21.2	22.7	25	26.7	26.4	25.3	25.5	24.9	23.9	23.2	24.6	25.3	24.6人	24.0人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	29	28	31	363日	361日
通所介護事業(サテライト型)	利用延人数	163	168	159	186	189	175	198	189	148	140	128	131	1,974人	2,014人
	平均人数	7.8	7.3	7.6	8.5	8.2	8.8	8.6	8.6	7.4	7	6.4	6.2	7.7人	7.8人
	開所日数	21	23	21	22	23	20	23	22	20	20	20	21	256日	257日
通所介護事業(認知症対応型)	利用延人数	222	250	264	264	265	256	282	250	241	252	243	274	3,063人	3,173人
	平均人数	9	10	10	10	10	10	10	10	9	11	10	10	9.9人	10.2人
	開所日数	25	25	26	26	27	25	27	26	26	24	24	27	308日	310日
認知症対応型共同生活介護	利用延人数	540	558	533	547	520	540	558	540	558	557	499	506	6,456人	6,422人
	平均人数	18	18	18	18	17	18	18	18	18	18	18	16	17.7人	17.6人
訪問介護事業	訪問回数	425	443	433	439	488	409	511	464	399	417	406	418	5,252件	4,954件
	訪問延時間	392.7	426.8	424.4	445.7	450.5	377.8	453.5	415.9	365.1	380.5	368.8	375.7	4,877時間	4,822時間
居宅介護支援事業	作成件数	213	210.5	213.5	212.5	223	225	212.5	212	217	204	204	213	2,560件	2,630件
地域包括支援センター事業	総合相談件数	632	945	813	965	1,222	911	1,003	1,113	941	996	1,040	1,055	11,636件	6,439件
	予防支援件数	191	192	201	197	201	197	200	210	206	205	199	202	2,401件	2,107件
障がい者短期入所事業	利用人数	9	14	35	35	30	16	15	22	12	10	19	20	237人	158人
障がい者居宅介護事業	訪問延時	49.5	61.5	59.3	57.8	67.3	55	96.8	71.8	59.5	64	62	64.8	769時間	855時間
障がい者同行援護事業	訪問延時	67	65	72	58.5	52	49	63.5	74.5	49.5	50	84	56.5	742時間	820時間
障がい者移動支援事業	訪問延時	22	24.5	31.5	28	26	21	29	27	27.5	20.5	20	24	301時間	292時間
障がい者地域活動支援センター事業	利用延人数	270	276	261	264	262	223	256	241	222	206	205	236	2,922人	3,120人
	平均人数	14	12	12	13	11	11	12	11	11	10	10	11	11.4人	12.1人
	開所日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	20	20	22	257日	257日
障がい者相談支援事業	相談件数	23	26	47	26	21	41	23	30	50	17	21	53	378件	880件
介護タクシー	輸送回数	183	164	168	163	181	131	181	149	167	127	161	161	1,936回	1,898回
持ち帰り弁当	食 数	66	87	92	99	98	98	92	107	101	97	90	96	1,123食	676食

V職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	6	0	2	0	4	0	0	0	0	0	0	0
相談員	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	42	12	18	3	24	9	4	2	1	0	3
	看護職員	5	6	1	0	4	6	2	1	0	0	2
	機能訓練職員	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調理師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医師	0	2		2	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	7	1	3	0	4	0	0	0	0	0	0
小 計	62	28	25	8	37	20	6	3	1	0	5	3
在宅事業	通所事業等	19	12	4	5	15	7	0	0	1	2	△ 1
	訪問介護	4	11	1	0	3	11	0	0	0	0	0
	居宅支援	5	1	0	0	5	1	1	0	0	1	△ 1
	包括支援	8	0	1	0	7	0	1	0	0	0	1
	グループホーム	13	3	5	0	8	3	0	1	0	1	0
小 計	49	27	11	5	38	22	2	1	1	4	1	△ 3
合 計	111	55	36	13	75	42	8	4	2	4	6	0

* 現員は2019年3月31日現在 就退職は2018年度内増減

VI寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	5件	175,000円
遺族	10件	390,000円
在宅	6件	565,000円
一般	38件	477,953円
役員	0件	0円
職員	0件	0円
業者	0件	0円
合計	59件	1,607,953円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）御殿場アドナイ館 2018 年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

平日の朝の礼拝を御殿場教会のご奉仕や数名の職員が順番で担い、祈りと感謝をもって一日を始められた。また、施設機関紙の発行や法人研修への積極的な参加、十字の園大会の当年度テーマ「キリスト教福祉ってなに」に対する取り組みなどを通し、理念の共有、醸成を図り共に生きる地域社会を目指し、一人ひとりを大切にしたいサービスの充実に努めた。

また、「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお『主の山に備えあり』と言う。」創世記22章14節。主が備えてくださったこの施設に住む者が、安心して心豊かに生活が出来るようにと、入居者のきめ細かな生活支援に努めた。

B. 運営方針について

1. 入居者が明るく楽しく心豊かに生活できるように支援する。

健康体操教室や散歩会を定期的に開催し、また、日頃の入居者とのコミュニケーションや関わりを通じ状態変化等に早期に気付けるよう心掛け、入居者の健康維持、増進に努めた。その他に通院支援、居室配膳、配薬などの日常生活支援サービスの継続とともに、居宅サービスと連携し可能な限りケアハウスでの入居が安心して継続できるよう努めた。

2. 入居者の余暇の充実や入居者同士の互助を促進し生活の質の向上を目指す。

買物送迎の実施や、春夏の遠足の他、季節を感じていただく花見や、外食、映画鑑賞、カラオケ大会など定期的に開催し、入居者同士の親睦を深めながら生活の質の向上を目指した。

3. 職員のソーシャルワーク実践力を高め、入居者の望む暮らしを支えると共に、地域の様々な生活困窮者への支援に務める。

毎月、よろず相談として相談日を設置するとともに、気軽に相談出来るよう職員の資質向上に努めた。また、市の生活保護担当者へ相談しながら受けられる社会資源の連絡調整や入居者の就労サポートを行った。

4. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあう。

毎月他の部署を交えた職員会議を開催し入居者情報などの共有を図った。また、他施設の見学や日本キリスト教社会事業同盟研修会など外部研修に参加し、資質の向上を図った。

5. 入居希望者の増加を図り健全な経営に務める。

市内や近隣地域の医療機関、公的機関、他事業所などへパンフレットを届けながら顔の見える関係づくりに努めた。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

各種の事業について、生活の充実をはかる為に、以下のことに取り組んだ。

1. 利用者の健康で安心した暮らしに向け努める。

健康体操を月2回、談話室で行った。内容として、ラジオ体操及びきぼう体操（呼吸・上肢、下肢、各関節に対する運動など）を実施。公的機関へ出向き、生活困窮者の救済措置の相談、連絡調整等を行った。

2. 生活の質を高めます。

毎月、カラオケや映画の会、親睦会などのレクリエーションを継続して行った。また、春と秋にはドライブ外出を行い、季節を肌で感じながら入居者同士の親睦を深め生活の質の向上を目指した。また、施設の洗濯たたみなどがボランティアの機会となり継続して行っていた。

3. 入居待機者の確保

入居待機者リストの見直し及び電話にて待機者の現状確認を行った。また、自治体へのパンフレット配布等を行い入居待機者の確保に努めた。

B. 利用実績

	ケアハウス
利用定員	30人
利用者延数	10,950人
一日平均利用者数	30人
稼働率、稼働指数	100.0%
稼働日数	365日
単価(一人一日当たり)	5,256円
老人福祉事業収入	57,549千円
職員数(常勤換算)	3.4人

C. 資金収支及び財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位;千円、未満切捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	65,232	57,791	51,781	42,235	13,451	15,555
施設整備による収支	3,315	3,315	6,630	6,630	△ 3,315	△ 3,315
その他活動による収支	10,000	6,030	18,494	16,668	△ 8,494	△ 10,638
当期資金収支					1,642	1,602

注：入居一時金の納入、返還の状況によって予算に対し変動があるが、資金収支への影響は、事業活動による収支差額の内 3,480 千円、その他活動による収支差額の内△3,480 千円であり当期資金収支差額への影響はない。

2. 事業活動計算書の状況

(単位;千円、未満切捨て)

	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
サービス活動収益計	52,780	53,811	54,570	53,847	53,431
サービス活動費用計	43,078	43,540	45,037	43,550	44,675
サービス活動増減差額	9,702	10,270	9,532	10,297	8,755
経常増減差額	9,639	10,165	9,428	10,140	8,501
特別増減差額	△ 7,797	△ 7,776	△ 7,641	△ 7,480	△ 6,700
当期活動増減差額	1,842	2,389	1,787	2,660	1,801

3. 設備投資及び積立金の状況

- ・高額修繕等：給湯循環ポンプ修理 172 千円、玄関底改修工事 556 千円、電気自動検針装置内蔵バッテリー交換 216 千円
- ・積立・取崩等：長期預かり金積立資産取崩 6,030 千円、長期預かり金積立 7,200 千円、修繕費積立 1,000 千円

4. 借入金及び借入償還の状況

- ・借入金：新規借入なし
- ・当期償還金 6,630 千円、元金補助金 3,315 千円、年度末残高 5,795 千円

III. 対処すべき課題

1. 要支援や要介護者が年々増加傾向にあり一層の他事業所等との連携強化等が必要
2. 建物外壁の塗装工事（2000 年竣工）
3. 各居室設備機器（トイレ、水回り機器）について経年劣化のため更新

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2018年度	2017年度
入居者数	男	7人	9人
	女	23人	21人
	計	30人	30人
利用日数	男	2,768日	3,894日
	女	8,182日	7,056日
	計	10,950日	10,950日
平均入居期間	男	6.5年	5.7年
	女	4.2年	5.1年
	計	4.7年	5.3年
最長入居期間	男	12.9年	11.9年
	女	9.6年	8.6年

区分		2018年度	2017年度
平均年齢	男	80.8歳	83.9歳
	女	82.4歳	82.7歳
	計	82.0歳	83.3歳
最高年齢	男	90歳	99歳
	女	90歳	92歳
最低年齢	男	68歳	67歳
	女	50歳	48歳
出身地域	圏内	16人	19人
	圏外	8人	6人
	県外	6人	5人
平均介護度		1.1	1.24

区分		2018年度	2017年度
新入居者数	男	1人	2人
	女	4人	5人
	計	5人	7人
退居者数	男	3人	4人
	女	2人	3人
	計	5人	7人
入院者数	男	5人	1人
	女	2人	3人
	計	7人	4人
入院日数	男	190日	200日
	女	55日	55日
	計	244日	255日

入居者の介護度区分

区 分	2018年度	2017年度
自 立	16人	16人
要 支 援	7人	3人
要介護度1	3人	5人
要介護度2	4人	5人
要介護度3	0人	0人
要介護度4	0人	0人
要介護度5	0人	0人
重度障害	1人	1人

入居前住居

区 分	2018年度	2017年度
自 宅	5人	6人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	0人	1人

退居者内訳

区 分	2018年度	2017年度
死 亡	1人	1人
帰 宅	1人	1人
病院へ転出	1人	0人
他施設へ転出	2人	5人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況
実施なし

V職員の状況

職種		配置		男		女		就職		退職		比較増減	
		常	非	常	非	常	非	常	非	常	非	常	非
		勤	常勤	勤	常勤	勤	常勤	勤	常勤	勤	常勤	勤	常勤
施 設 長		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事 務 員		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相 談 員		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接 処遇 職員	生活支援員	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	介護職員	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	看護職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄 養 士		1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調 理 師・員		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医 師		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計		6	1	3	0	2	1	1	0	1	0	0	0
合 計		6	1	3	0	2	1	1	0	1	0	0	0

*施設長,,事務員,栄養士は特養兼務
*現員は2019年3月31日現在 就退職は2018年度内増減

VI寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	3件	112,000円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	1件	9,268円
役員	0件	0円
職員	0件	0円
業者	0件	0円
合計	4件	121,268円

その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

特別養護老人ホーム 伊豆高原十字の園 2018 年度事業報告書

I. 総 括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人の理念を理解、実践できるよう、各部署で始業時、理念の唱和を行うほか、礼拝への参加を促し、出席の困難な事業所については日めくり聖書を活用した。また、施設の運営理念に則って、地域とともに歩むために、教会主催の社会福祉フォーラムに協力し、キリスト教福祉について学びを深めつつ、対島地域ふるさと協議会を中心とした地域住民や関係団体とも連携した運営ができた。

B. 運営方針について

1. 経営、運営への取り組み；毎月の管理会議や各部署会議等で事業経営の現状を周知し、職員一人ひとりが意識するよう心掛けた。また、人員体制が整わない部署であっても、業務手順の見直しと施設全体のチームワークでカバーした。在宅事業の利用数減、介護報酬単価減少の影響がある中、加算体制、借換えによる借入金の縮小もあり増収となった。
2. 安心安全への取り組み；6 S運動（整理、整頓、清潔、清掃、躰、作法）を実施することで職場環境を整えた。また、新規導入した介護保険ソフト「ほのぼの」を利用し、事故の集計を行ったが、ソフトの運用について未熟であり、分析等の活用まで至っていないため、今後も引き続き取り組んでいく。
3. 人材確保への取り組み；フェイスブックを活用し、施設のPRに努めた。ハラスメントについては職員間で発生してしまったが、その後全職員を対象に研修会を開催し、ハラスメント防止について理解を深めた。今後も引き続き取り組んでいく。
4. 地域に向けた取り組み；対島地域包括支援センターを軸とし、対島地域ふるさと協議会と連携して、認知症カフェなどの開催により地域福祉を推進できた。また、伊東市より新規事業として生活支援コーディネーターの委託があり、10月より事業を開始。地域との繋がりがさらに広がりつつある。

II. 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設事業

- 1) 生活支援室；導入した介護記録ソフトの活用により、記録・手順の簡素化、記録時間の短縮ができた。その結果、入居者と関わる時間が増え、サービス向上に繋がった。
- 2) 看護室；嘱託医と連携をとり、個人の意向に沿った医療を行い、最晩年の時に穏やかで安楽な日々を送っていただけるよう他部署と協力し支援できた。
- 3) 生活相談室；入居利用者及び家族の意向に沿い、入居から日々の生活、そして看取り介護となった最期までそれぞれの希望に沿ったサービス提供を実現することができた。
- 4) 給食室；人員不足が続き、新規の取組等は出来なかったが、平和の杜と連携しつつ、家庭的な食事の中で「美味しさ」を追求し、利用者の生きる力・笑顔溢れる生活を支える事ができた。
- 5) 事務室；業務の効率を見直したことで人件費を削減することができ、経営の健全化に繋がったが、事務業務の再編成が優先となり、他部署との連携を深めるには至らなかった。

2. 地域包括支援センター事業

地域ケアシステムに向け、地域ケア会議にて医療、福祉とも連携し、課題の発掘や解決にも繋がった。また、地域ボランティア等の協力でサロンなどの地域福祉が活性化した。

3. 居宅介護支援事業

- 1) 伊豆高原；多職種との連携や入院時の情報提供、カンファレンスに出席し、情報の共有を行うなど、医療の連携も行うことで、重度化の防止に努めることができた。また、満足度アンケートの結果からも利用者のニーズにあった支援ができた。
- 2) ケアプランセンター一碧；内外部への研修を積極的に参加し、報告・連絡・相談を確実に行う事により質の向上へと繋がり、信頼の於ける事業所へと周知されてきている。

5. 短期入所生活介護事業

安全で安心して利用でき、レクリエーションを増やし、満足度を高めた。

6. 通所介護事業

内外の研修に積極的に参加し、職員一人ひとりの質の向上に努めた。更に個別処遇の徹底により、今まで以上に利用者、家族に安心して頂けるサービスの提供ができた。

7. 介護予防事業

生活総合機能改善機器を導入することにより、職員の資質向上を図った。休止していた「下町サロン」は5月から再開でき、計画していた総合事業通所型サービスAは、職員の配置等が困難であったため、地域介護予防活動支援事業通所型サービスCとして12月から開催できた。

8. 訪問介護事業

変化に気付こうとする意識を持ち訪問する事で、他事業所との速やかな連携や、サービス内容の見直しに繋げ、的確で必要なサービスの提供を行う事ができた。

9. 移送サービス事業

安全に地域の利用者の外出の支援をする事が出来た。依頼のあった仕事については、時間の調整を行い出来るだけ多くの方が介護タクシーを利用できる様に努力した。

10. 配食サービス事業

季節感があり、美味しさにこだわった栄養ある弁当にて食の確保を行い、笑顔での配達を心がけ、責任ある安否確認をし、在宅生活継続の支えとなることが出来ました。

B. 利用実績

事業名	介護老人福祉	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅介護支援
利用定員	90 人	10 人	27 人	人	人
利用者延数	32,558 人	3,424 人	6,977 人	17,040 時	2,679 件
一日平均利用者数	89.2 人	9.3 人	22.6 人	46.6 時	件
稼働率・稼働指数	99.1 %	93.8 %	83.8 %	%	%
稼働日数	365 日	365 日	308 日	365 日	254 日
単価 (一日一人当り)	13,579 円	13,083 円	8,887 円	3,419 円	12,991 円
介護保険事業収入	442,099 千円	44,798 千円	62,005 千円	58,274 千円	34,805 千円
職員数(常勤換算)	66.2 人	6.7 人	10.3 人	10.9 人	7 人
事業名	地域包括	介護タクシー	介護予防	配食	合計
利用定員	人	人	人	人	人
利用者延数	14,039 件	1,228 人	742 人	5,228 人	人
一日平均利用者数	57.5 人	4.8 人	人	人	人
稼働率・稼働指数	%	%	%	%	%
稼働日数	244 日	254 日	日	日	日
単価 (一日一人当り)	円	1,290 円	円	円	円
介護保険事業収入	37,686 千円	1,584 千円	7,602 千円	3,883 千円	692,736 千円
職員数(常勤換算)	6.8 人	1 人	1.9 人	1 人	111.7 人

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位；千円、未満切り捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	713,231	692,736	631,230	627,976	82,001	64,760
施設整備による収支	0	629,810	66,572	694,863	△66,572	△65,053
その他活動による収支	530	6,044	13,518	13,366	△12,988	2,678
当期資金収支	—	—	—	—	2,441	2,385

☆事業活動収支について

事業活動による収支において、収支差額が当初予算より 17,241,000 円減となった要因は、当初予算に比べ収入が 20,495,000 円減となったことである。入居者の入院日数が 274 日と多かったこと、短期入所、通所介護、訪問介護の利用数が減少したことが影響した。また、支出が 3,254,000 円減となった要因は、当初見込んでいた介護職員の採用が進まなかったため人件費が減額となったこと、設備資金借入金の内、(独)福祉医療機構の借り入れ分を静岡銀行に借り換えをしたため、金利が下がったことにより支払利息が減少したことである。また、借り換え実行時にかかる手数料分 15,504,000 円を法人本部より繰り入れたため、その他活動による収入が増加している。

2. 事業活動計算書の状況

(単位；千円、未満切り捨て)

	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年	2014 年
サービス活動収益計	690,491	685,663	674,518	679,953	636,074
サービス活動費用計	661,063	671,267	664,116	665,176	629,492
サービス活動増減差額	29,428	14,396	10,403	14,776	6,582
経常増減差額	5,582	4,287	△719	7,734	△586
特別増減差額	15,503	△3,253	△9,246	△8,751	0
当期活動増減差額	21,086	1,034	△9,965	△1,016	△586

☆サービス活動収支について

サービス活動による収支において、収益が前年度より 4,828,000 円増となり、特養の報酬改定が影響した。また費用においては職員の採用が進まず、人員不足による人件費が減額となったことが、当期活動増減差額が 20,052,000 円増となった要因である。

3. 設備投資及び積立の状況

1) デイ送迎車両 2000 cc クラス (日産セレナをリース契約した)

2) 低床ベッド 1 台 低床ベッドは当初 5 台導入予定であったが、特養において電気温水器の修繕が必要となり、修繕費を確保するため次年度に導入することとした。また、移動式リフトにおいても同様の理由で、次年度に導入予定である。

3) 積立は無い

4. 借入金及び借入金償還の状況

設備資金借入金元金償還：63,412,000 円 利子：24,371,001 円 (内、借換時手数料 15,503,130 円)

借入金年度末残高：756,388,000 円

2018 年 12 月に (独)福祉医療機構からの借入残額を償還し、新たに静岡銀行より 629,810,000 円を借り入れた。

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 将来の修繕費、人件費などに対応するため、引き続き運営、経営の健全化に取り組む。
2. 利用者の安全で快適な生活及び職場環境を整えるため、リスクマネジメントに取り組む。
3. 職員間で良好なコミュニケーションが継続的に取れるよう、辞めない職場作りに取り組む。
4. 地域共生社会を実現するため、「対島地域ふるさと協議会」と連携し、地域のニーズに応えられるよう地域住民などと協働していく必要がある。

IV. 利用者の状況

施設名 伊豆高原十字の園

1. 施設利用の状況

区分	2018年	2017年
入居者数	男 16人	18人
	女 74人	71人
	計 90人	89人
利用日数	男 6250日	6895日
	女 26460日	25768日
	計 37710日	32663日
平均入居期間	男 2年10ヶ月	2年8ヶ月
	女 4年0ヶ月	3年8ヶ月
	計 3年10ヶ月	3年6ヶ月
最長入居期間	男 7年10ヶ月	6年9ヶ月
	女 24年0ヶ月	23年0ヶ月

区分	2018年	2017年
平均年齢	男 81.7歳	80.8歳
	女 89.5歳	89.0歳
	計 88.0歳	87.3歳
最高年齢	男 100歳	99歳
	女 100歳	100歳
	計 67歳	66歳
最低年齢	男 65歳	73歳
	女 85人	81人
	計 81人	81人
出身地域	圏内 3人	6人
	圏外 2人	2人
	計 5人	8人
平均介護度	3.8	4.0

区分	2018年	2017年
新入居者数	男 1人	7人
	女 13人	20人
	計 14人	27人
退居者数	男 3人	7人
	女 9人	19人
	計 12人	26人
入院者数	男 3人	1人
	女 5人	7人
	計 8人	8人
入院日数	男 105日	18日
	女 169日	198日
	計 274日	216日

入居者の介護度区分

区 分	2018年	2017年
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	3人	3人
要介護度2	6人	7人
要介護度3	29人	26人
要介護度4	18人	19人
要介護度5	34人	35人

入居前住居

区 分	2018年	2017年
自 宅	4人	4人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	9人	16人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	3人
他 施 設	1人	4人

退居者内訳

区 分	2018年	2017年
死 亡	12人	25人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	0人	1人
他施設へ転出	0人	0人
そ の 他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年度	2017年度
短期入所生活介護事業	利用延入	290	274	293	248	286	280	290	303	272	317	270	301	3,424人	3,473人
	平均人数	10	9	10	8	9	9	9	10	9	10	10	10	9.4人	9.5人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
通所介護事業(一般型)	利用延入	572	619	608	560	578	544	622	581	568	555	570	600	6,977人	7,235人
	月平均人数	23	23	23	22	21	22	23	22	23	23	24	23	22.7人	23人
	開所日数	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	308日	310日
訪問介護事業	訪問回数	1475	1503	1567	1602	1587	1436	1721	1660	2512	1511	1414	1450	19,438回	17,777回
	訪問延時	1476	1404	1385	1457	1439	1420	1542	1463	1393	1412	1289	1360	17,040時	17,833時
	相談人数	741	814	795	913	1116	1290	1279	1364	1428	1401	1361	1537	14,039人	6,735人
地域包括支援センター事業	相談件数	1500	1586	1698	1942	2553	2708	2753	3299	3371	3241	3038	3498	31,187件	12,633件
	予防計画件数	162	164	169	165	165	167	176	181	175	173	169	144	2,010件	2,736件
	作成件数	218	213	221	225	225	219	219	224	224	233	230	228	2,679件	2,682件
身障訪問介護事業	訪問回数	15	15	19	15	20	18	14	16	16	14	15	15	192回	175回
配食サービス	食 数	425	509	470	460	469	390	444	435	422	404	399	401	5,228食	4,983食
介護タクシー	輸送回数	104	115	110	111	113	73	113	97	112	99	85	96	1,228回	1,349回

V 職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	3	2	2	1	1	1	0	0	1	0	-1	0
相談員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0								0	0
	介護職員	40	10	19	1	21	9	7	1	6	1	1
	看護職員	3	1	0	0	3	1	1	1	0	0	1
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調理師・員	4	5	2	2	2	3	3	0	2	2	1	-2
医師	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	8	0	5	0	3	0	1	0	0	0	1
小 計	55	28	26	11	29	17	11	3	9	3	2	0
在宅事業	通所事業等	7	7	1	3	6	4	1	1	1	0	1
	訪問介護	6	25	1	0	5	25	0	1	2	4	-3
	居宅支援	7	0	2	0	5	0	2	0	0	0	2
	地域包括	5	1	1	0	4	1	0	1	1	0	-1
	介護予防	1	5	0	0	1	5	0	0	1	0	-1
	地域支援	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計	27	38	6	3	21	35	3	3	4	5	-1	-2
合 計	82	66	32	14	50	52	14	6	13	8	1	-2

*現員は2019年3月31日現在

就退職は2018年度内増減

VI 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	5件	220,000円
入居者家族	29件	311,000円
遺族	4件	255,487円
在宅	43件	436,912円
一般	28件	274,267円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	109件	1,497,666円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）アドナイ館 2018 年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

1. 法人理念の具現化に努め、定款第 1 条のキリスト教の精神に立って、ケアハウス、デイサービス利用者の尊厳を保持しつつ総合的なサービスの提供が出来るように創意工夫を行い、自立した生活が営めるように支援を行った。
 2. ケアハウス、デイサービス利用者へ、理念に基づいたサービスに務めた。
- ＊ キリスト教の理解と理念の浸透の為、理事長講話、毎月職員全体会礼拝を実施。

B. 運営方針について

1. ケアハウス：入居者が自分らしい生活を出来るだけ長く「安心、安全」で暮らし続けられるように支援を行った。環境整備、相談援助
2. デイサービス：利用者の在宅生活を見据えたサービス内容の提供に努め、利用者・家族の支援を行った。デイたよりの発行、通所介護計画の充実
3. 研修：職員の資質向上を目指し、個別研修計画書を作成し目的を持って自己学習に取り組んだ。スキルアップ支援制度創設
4. 西部地区 3 施設の 1 本化に向けて協力し、経営管理委員会（毎月）、課長会議（毎月）、防災委員会（隔月）、3 施設総合防災訓練、3 施設合同見学会を実施。又地域連携としてこども園、幼稚園、保育園等との交流を図った。

II. 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業の目標達成状況

1. ケアハウス部門：
 - ① 入居者の快適な居住環境の整備として、各居室の設備点検、給湯器、流し、トイレ、網戸等の補修、改修を一部行った。居室バルサン消毒実施
 - ② 記録管理の改善を図る。フェイスシート、エンディング更新の課題が残る。
 - ③ 物品の整理に努めたが、物品管理の取り組みが出来なかった。
2. デイサービス部門：
 - ① 機能訓練の計画書・記録及び日誌業務の効率化を図る。プログラムの一部変更、設備・備品の整理整頓を行った。
 - ② 市民ふれあい広場に参加し、地域との交流を図る。家族会や区民公開講座は実施出来なかった。
 - ③ 利用者への個別対応や家族の要望に応え、在宅生活の支援を行った。
3. 調理部門：
 - ① 1 ヶ月で新メニューを 5 品導入することを目標として、概ね達成が出来た。
 - ② 新しい機器や消毒等の導入を図り衛生管理に努める。HACCP 認定動向見て判断。
 - ③ 一人ひとりの喫食状況を配慮し、栄養管理を行い質の向上を図った。

B. 利用実績

	ケアハウス	通所介護	事業活動収入
利用定員	50 名	30 名	
1 日平均利用者数	50 名	22.7 名	
稼働率、稼働指数	100%	75.7%	
稼働日数	365 日	308 日	
単価（一人一日当たり）	4,983 円	9,428 円	
老人福祉事業収入・介護保険事業収入	90,943 千円	65,991 千円	163,274 千円
職員数（常勤換算）	10.95 人	11.41 人	22.36 人

C. 資金収支、財務状況、

1. 資金収支予算達成状況

（単位；千円）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	164,552	163,274	159,885	151,192	4,667	12,082
施設整備による収支	0	100	6,972	6,958	△6,972	△6,858
その他活動による収支	6,500	6,839	3,793	9,418	2,707	△2,579
当期資金収支	-	-	-	-	402	2,645

・事業活動による収支：当初予算に対し収入はデイサービスが目標に達せず 1,278 千円減、支出は 8,693 千円減（人件費が 7,979 千円減）、収支差額は 7,415 千円増だった。

・施設整備による収支：当初予算に対し、収入は 100 千円増（車の売却益）、支出は 14 千円減、収支差額は 114 千円増だった。

・その他活動による収支：当初予算に対し、収入 339 千円増、支出は 5,625 千円増（拠点区分間長期借入金返済支出 4,000 千円）、収支差額 5,286 千円減だった。

・当期資金収支差額：当初予算対し、2,243 千円増額の実績だった。

2. 事業活動計算書の状況

（単位；千円、未満切り捨て）

	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年	2014 年
サービス活動収益計	160,182	163,923	157,821	157,971	168,165
サービス活動費用計	150,689	151,731	154,890	162,077	163,239
サービス活動増減差額	9,493	12,192	2,931	△4,105	4,926
経常増減差額	10,918	12,856	3,594	△2,839	5,785
特別増減差額	△2,527	△3,069	△2,730	△11,008	△356
当期活動増減差額	8,401	9,787	864	△13,847	5,429

3. 設備投資及び積立資産の状況

- ・器具及び備品取得：固定資産取得費 386,640 円（事務用パソコン 2 台 206,280 円、居室エアコン 1 台 180,360 円）・賃借料：送迎車両両ヴォクシー（49,300 円/月）、電解水生成装置（7,992 円/月）・建物取得・修理費：修繕費 4,324,366 円（居室キッチンの改修 487,836 円、消防点検不良箇所防火ドア他修繕 420,120 円、バルコニー手摺補強工事 572,400 円他）・積立累計：修繕費積立資産 3,400 千円

4. 借入金及び借入金償還の状況

- ・元金償還 6,000 千円、利子 314 千円、今年度償還。年度末残高 24,000 千円

III. 対処すべき課題

1. 乾燥機室増設工事
2. ボイラー設備更新
3. ブラスストチラー（超急速冷却機）購入

Ⅳ利用者の状況(2018年度)

施設名 アド ナ イ 館

1.施設利用の状況

区分		2018年	2017年
入居者数	男	14人	12人
	女	36人	38人
	計	50人	50人
利用日数	男	5,110日	4,016日
	女	13,104日	14,204日
	計	18,214日	18,220日
平均入居期間	男	6.6年	6.7年
	女	9.4年	9.5年
	計	8.6年	8.9年
最長入居期間	男	26年	25年
	女	26年	25年

区分		2018年	2017年
平均年齢	男	79.6歳	78.7歳
	女	82.9歳	82.7歳
	計	82歳	81.8歳
最高年齢	男	93歳	92歳
	女	96歳	96歳
最低年齢	男	47歳	46歳
	女	57歳	68歳
出身地域	圏内	35人	34人
	圏外	9人	8人
	県外	6人	8人
平均介護度		1.4	1.4

区分		2018年	2017年
新入居者数	男	3人	2人
	女	5人	4人
	計	8人	6人
退居者数	男	1人	1人
	女	7人	4人
	計	8人	5人
入院者数	男	2人	3人
	女	8人	8人
	計	10人	11人
入院日数	男	5日	53日
	女	305日	280日
	計	310日	333日

アドナイ館

入居者の介護度区分

区 分	2018年	2017年
自 立	27人	28人
要 支 援	10人	9人
要介護度1	9人	8人
要介護度2	3人	2人
要介護度3	1人	3人
要介護度4	0人	0人
要介護度5	0人	0人

入居前住居

区 分	2018年	2017年
自 宅	7人	4人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	1人	2人

退居者内訳

区 分	2018年	2017年
死 亡	0人	0人
帰 宅	2人	0人
病院へ転出	1人	0人
他施設へ転出	5人	5人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年度	2017年度
通所介護事業 (一 般 型)	利用延人数	542	636	610	614	668	593	595	604	554	551	437	595	6,999人	7,290人
	月平均人数	21.7	23.6	23.5	23.6	24.7	23.7	22	23.2	22.2	23	18.1	23	22.7	23.7人
	開 所 日 数	25	27	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	308日	308日

Ⅴ職員の状況

職種		配置		男		女		就職		退職		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	増加	減少
施 設 長		1		1									
事 務 員		1				1							
相 談 員		1				1							
介護支援専門員													
直接処遇職員	生活支援員												
	介護職員	1	2			1	2						
	看護職員												
	機能訓練職員												
栄 養 士		1		1									
調 理 師・員		4	2	1	0	3	2	1	0	1	0	0	0
医 師													
そ の 他			4		4								
小 計		9	8	3	4	6	4	1	0	1	0	0	0
在宅事業	通所事業等	7	11	4	3	4	7	0	5	0	3	2	0
	訪問介護												
	居宅支援												
	小 計	7	11	4	3	4	7	0	5	0	3	2	0
合 計		16	19	7	7	10	11	1	5	1	3	2	0

Ⅵ寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	33件	703,000円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	31件	265,000円
業者	0件	0円
職員	1件	3,000円
役員	0件	0円
合計	65件	971,000円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

*現員は2019年3月31日

就退職は2018年度内増減

松崎十字の園・オリブ 2018 年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

月曜から金曜日まで、毎朝の礼拝を守る事が出来た事に感謝である。奨励に関わる松崎・下田教会の牧師が福祉の事と聖書の言葉を関連付けてお話下さっている事また、礼拝後も利用者との交わりの時を持って下さっている事に感謝である。礼拝への参加者は、職員・利用者合わせて十数名だが、業務で忙しい中、時間を作って加わってくれる職員もあり、感謝である。

2018 年度の十字の園大会は、松崎が幹事施設で「キリスト教福祉とは何か」というテーマで全施設が取り組み、下記の言葉を得る事が出来た。

キリスト教福祉とは

「命の営みに関わる事、命の営みを見る事。それは、人それぞれの人格（利用者のお一人おひとり、共に働く仲間、自分自身）を大切に、イエスキリスト（聖書に書かれているイエスの福祉の業、法人・施設の先輩たちが行った利用者への関わりとその思い）に倣い、利用者と関係（神のはたらき）の中で、様々な物語を紡ぎ出す事。それらに心を留める、そして行う事をいう。」

変えられるもの、変えていくもの 「頑なな心(自我)」

変えられないもの、変えてはいけないもの 「一人ひとりの存在を大切にする心(愛)」

B. 運営方針について

みんなが笑っていただける施設を目指します。(中期計画テーマ)

働きやすい施設へパートⅡ (2018 年度テーマ)

育てる力をつけます。

- ・職員の採用が難しい中で、職員の怪我や病気により欠員が出た事、リーダー格の職員が利用者との関わりの中で退職した事で、業務の見直しを行い、介助員の増員や異動などで対応をしている。そのような状況で、高齢者施設では、15 名、障がい者施設で 2 名の利用者が天に召されたが職員がそれぞれに関わりを深くし、利用者並びに家族に、満足いく対応を行ってくれた。
- ・法人の評価システムは、全職員向けに本格的稼働をしておらず、そこからの質を高める事は出来なかった。しかし、課長・主任等に面接等の研修を実施し、次年度に向けて、個人の自己研修目標の立案、職員の質の向上の足掛かりが出来た。

安心安全な運営を目指します。

- ・各主任に、改修の必要な部分の洗い出しを行って貰い、施設整備チェック表にまとめた。その中で、2018 年度は、予算を見ながら、和式トイレの洋式化、日差しの強い処のカーテン設置、利用者向け Wi-Fi の設置等を行った。

健全な経営を考えます。

- ・事業の数値目標を意識したサービスの提供は、施設長が毎月の主任会議等で会計報告を行ったが施設長の能力不足で事業運営と収支状況の変化に対する戦略を考えるまでには至らなかった。
- ・松崎十字の園全体の将来ビジョンと各事業のあり方について施設長としては方向性を出しているが、それが各主任達に具体的なイメージとして伝わっておらず、具体的中長期計画の立案が求められる。

利用者の生活を丁寧に支援します。

- ・職員は利用者毎やユニット毎に日々の活動の行事計画を立案し、実行した。病状の変化の際、利用者の思い、家族の思いに合わせた対応を多職種の連携の中で行う事が出来た。

II. 事業計画、目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設 松崎十字の園

(1) 介護：1. 笑顔、チームワークについては、それぞれの職員が行事や個別ケアの中で一年を通して積極的に取り組んでくれた。言葉使いは、職員アンケートでは出来ていないとの意見があり、次年度は、取り組みたい。介護の標準化は思っていた以上に難しく、取り組むに至らなかった。新人が入ってこない現状だが中堅職員の指導力不足も感じている。2. 働きやすい環境については、職員自身が健全な職場環境に対する意識が低く、正常でない環境に居ても、それが普通となってしまうと異常と感じていない。施設の修理等の対応が遅いことで組織に対する諦めが生まれている。3. ユニット会議で勉強会を行っているが、準備時間がなく資料配布と簡単な説明になる事が多かった。

(2) 看護：1. 季節に関係なく風邪症状や嘔吐下痢症状の方が発生し、注意を要した。インフルエンザは、職員に多く罹患し、初動対応により利用者にも蔓延する事はなかった。入院や看取り・召天者の対応は多職

種連携で行ったが情報の交換・共有を密にする必要を感じた。新入所の方は、介護度が高く認知症状や身体的リスクがあり、施設での対応の限界等を家族に理解していただく事と職員には疾病の理解、生活援助の対応の向上をカンファレンスや勉強会で身につける必要を感じている。

(3) 相談員：1. 16名の退所のうち、13名は看取りの介護を経て永眠された。退所から入所までの期間は、平均3.6日で老健などの施設入所の方は、すぐに退所できない為、期間が空きがちである。2. 入院や退所時の空床の際は短期相談員と連携を取ってきたが、終末期は施設で過ごしたいとのご希望で早めの退院者もあり、空床の期間が読めなかった。3. 入所の相談に来られた際に施設内を案内したり、民生委員等のボランティア受け入れや、地域の行事に出かけて行く事で施設を知っていただいた。近隣の施設が整備されたこともあり、以前に比べ入所申し込み者は減少している。

(4) 施設介護支援専門員：1. 聞き取りが可能な範囲で、本人の言葉をそのまま支援計画書に載せた。家族から聞き取った本人の意向や家族の想いを反映させた。2. 季節に応じた行事やボランティアの受け入れは継続して行った。家族の協力もあり、外泊される方もいた。買い物・花摘み等の外出支援の協力を行った。3. 身体機能の低下、認知機能の低下が見られた際は、必要に応じて関係部署が集まり随時会議を開催した。急な状態の変化に対しては 会議という形ではないが、関係部署が集まり情報共有・支援方法の確認を行った。

2. 短期入所生活介護事業：1. 利用者の状態を把握して、家族への情報提供を行なった。そのため、状態によっては、病院受診をして頂き、そのまま入院となってしまったケースもある。2. 起きてしまった事故に関して、記録を確認して、同じ事故（状況）にならないよう居室の配置などの工夫を行なうことにより再発防止を行なった。

3. 通所介護事業：1. 全利用者の個別リハビリプログラムの立案、提供を目指して来たが、一部提供出来ていない利用者もいる。生活リハビリの種類に関しては、歩行訓練、立ち上がり訓練、炊事、裁縫等を継続して提供した。今後も提供できる種目を増やし、様々な生活リハビリプログラムの体制を作って行きたい。ネグレクトと思える利用者には、デイの職員で独自に着交介助・食事支援を行っている。

4. 訪問介護事業：1. 在宅の方は、入退院が多い事、施設入所なるケースがあり、利用人数が減ってしまった。関係機関からの新規の情報が少なくなった。

5. 居宅介護支援事業：1. 在宅利用者の介護に関するものを解決していく事により、本人、家族の負担を軽減し、生活の中に楽しさを少しでも加えていけるよう支援した。2. 施設内のサービス事業所を利用する事により、情報の共有が早く、レベル低下時に迅速にサービス調整が行え、現在も在宅生活が続けられる事を可能にした。

6. 障害者支援施設 オリーブ

(1) 施設支援：1. 利用者お一人おひとりの生活を支えるために、個別支援計画書を作成し実行・見直しを行ない生活の中に楽しみを見つけることを考え、外出や買い物、外食等の計画を立て外に出ることを中心に実施した。また、生活の質を上げていくために、個々に作業や生活の中に役割（掃除や洗濯・食事の手伝い等）を持つ事を実施した。2. 看護師等から障害や疾病について説明を受けたがその場しのぎになってしまった。職員一人一人の意識を高めることとして、サービス基準指針の読み合わせを毎朝行ってきたことは、一人ひとりの糧になった。3. 隣地の畑の利用を行ったが鹿等の被害にあい、収穫できなかった。4. 3月に開設時から入所されていた方が心不全により永眠された。本人の希望で食事制限等一切せず、自由な食事の為か、塩分の過剰摂取に繋がったと思われる。本人の思いを尊重するが故ではあるが早期の発見や指導が出来ず、複雑な思いがする。

(2) 生活介護：1. 新規利用者1名の確保が出来たものの、入院された方や違うサービスを利用された方がおられ、稼働率としては前年度同様となった。送迎の関係で利用をお断りした方が1名いたが、次年度は高齢者デイサービスとの車両調整により、週一回からの利用が開始する方向でいる。

(3) 看護：1. 高齢による身体低下や疾病。また、若くても癌や下部消化管の疾病などの疾病を伴い、過ごされている。食事の調節や管理、健康維持の予防なども個別の検討が必要と感じる。又、家族の高齢化など今後の生活を支える人たちのことも踏まえて、情報交換、共有していくことが必要と思われる。

(4) 機能訓練：1. 機能訓練として運動療法、生活環境の改善、日常生活観察等 個々の利用者に応じて個別の支援をしている。特に、生活環境の改善としては エアマット導入に際しては必ず業者に依頼して体圧測定を実施し、対応を決定しており、根拠をもった支援を次年度も心掛けていきたい。

7. 身障短期入所事業：1. 2018年度は、2月、インフルエンザ流行の影響も多少あったが、稼働率107.5%

と良かった。新規利用契約者も2名確保し次年度も新規契約者1名が決まっている。短期入所の需要は今後も高まる傾向があり相談支援事業所と連携していきたい。2. 今年度は、長期利用者はいなかったため一時帰宅等の支援は行わなかった。

8. 障害者相談支援：1. 相談受け持ちエリアが1市5町と広く、車の移動時間がかかる状況の中で2018年度は情報機器等の活用を考えたが未整備となった。2019年度中に地域生活支援拠点の整備を進める事になっているので、東側に拠点を設ける事も合わせて考えていきたい。
9. 障害者ヘルパー事業：1. 当事業所の活動範囲外に化学物質過敏症の利用者が2名おられ、その地区には障がいの訪問事業者が少ない為、担当ヘルパーが関わっている。同じ過敏症でも、反応がそれぞれ違い訪問ヘルパー自身の衣服の洗濯、自身の洗身などを行い訪問時に対応している。次年度も新規の化学物質過敏症の利用者もあり、相談員と密に連絡を今まで通り行い、支援して行きたい。
10. 就労継続支援B型事業所（ワークショップマナ）：1. 桜葉の葉柄切など新しい作業や陶芸・木工で新作を取り入れたりして、作業の変化を付けている。また本人の能力に合わせて出来る事を増やすようにしている。2. 陶芸では、他作業所で焼き物の技術や、高次脳障害の学びを行った。3. 販路の拡大として新しい農産品直売所での販売も開始し、作業所敷地内にある診療所前でパンや農産物の販売を行っている。御殿場教会等のイベント販売にも応じている。4. 利用者も増えている中で、稼働率も今年度114.4%で昨年より5.6%増となった。次年度も2名増が見込まれている。
11. 給食：1. 保健所主催の衛生講習会(熱海会場、下田会場)に2名の栄養士が参加し、給食会議内で伝達講習を1回、施設全体で食中毒の勉強会を兼ねた伝達講習を1回行い手洗いの勉強会は施設全体で1回行った。2. 例年どおり10月のおやつバイキングのイベントを開催し、実際にフロアでおやつを手渡すところまで関り、間近で利用者様や他部署の職員の反応を感じ、厨房職員も楽しんで取り組めたと感じている。美味しいもの、美味しそうなもの(見た目も大事)は人を笑顔にするし、幸せにする。そんなイベントとしてこれからも育てて行きたいと考えている。3. 年度始めは、早・遅が出来るパートが少なく、日中は人が多いという体制になり業務内容の見直しを行った。見直しにおいては、案を投げかけて、個々の意見を聞いて、最終的には会議で結論を出すような形で進めてきた。今後も「言われた通り」でなく、1人1人がよく考え、発言し、みんなで決める事を継続していきたい。
12. 事務：1. 伊豆地区3施設の会計事務の統合は、担当責任者と事務処理の拠点を明確にし、そこに会計データを集約する事を2019年度から活動をする事を決めた。松崎では、施設内の事務担当を明確にする事で会計事務統合担当責任者からの指示を待つ状況である。稟議書を内容別に用紙の色分け整理し決裁の手続きを分かり易くした。2. 主任会議に法人への月次報告に合わせて予算超過科目の照合精査・要因確認と報告並びにサービス区分毎の収支状況を提示や有休の消化状況・超過勤務状況の報告をした。

B. 利用実績

①松崎十字の園拠点利用実績

	特養	短期	通所
利用定員	50人	9人	25人
利用者延べ数	18,013人	3,604人	4,413人
一日平均利用者数	49.3人	9.8人	17.3人
稼働率・稼働指数	98.7%	109.7%	69.4%
稼働日数(日)	365	365	254
単価(一人一日当たり)	11,811円	11,040円	9,076円
総収入(千円)	212,765	39,790	40,056
職員数(常勤換算)	28.6人		6.8人

	訪問	居宅	合計
利用定員	—	—	—
利用者延べ数	1,627.0時間	290件	—
一日平均利用者数	4.4時間	—	—
稼働率・稼働指数	—	—	—
稼働日数	—	—	—
単価(一人一日当たり)	4,292円/時	11,186円/件	—
総収入(千円)	6,984	3,244	302,839
職員数(常勤換算)	3.3人	1人	39.7人

②オリブ拠点利用実績

	施設支援生活介護	生活介護	短期	訪問
利用定員	22人	27人	2人	
利用者延べ数	7,899人	5,247人	785人	952時間
一日平均利用者数	21.6	20.1	2.1	2.6時間
稼働率・稼働指数	98.3%	74.4%	107.5%	
稼働日数	365日	261日	365日	365日
単価（一人一日当たり）	6,060円	12,289円	9,836円	2,878円
総収入（千円）	47,872	64,483	7,722	2,740
職員数(常勤換算)	9.6人			3.3人(兼務)

	相談	就労支援	合計
利用定員	—	20人	—
利用者延べ数	2,389件	5,813人	—
一日平均利用者数	—	22.8	—
稼働率・稼働指数	—	114.4%	—
稼働日数	—	254日	—
単価（一人一日当たり）	5,241円	9,942円	—
総収入（千円）	12,523	57,792	193,137
職員数(常勤換算)	1.9人	8.2人	23.0人

C. 資金収支・財務状況

1. 資金収支予算達成状況

①松崎拠点

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	308,873	307,846	297,828	293,363	11,045	14,483
施設整備による収支	5,250	5,250	27,115	27,766	△21,865	△22,516
その他活動による収支	16,420	18,920	5,366	6,334	11,054	12,586
当期資金収支					234	4,553

- ・収入について：特養は安定した収入であり、在宅部門は、居宅が伸びた以外は稼働率が前年度より下回り、当初予算に対しても低い結果となった。
- ・支出について：人件費比率70%を超える状況ではあるが、建物の賃借料等を見直すなど全体の支出を抑える事が出来た。

②オリブ拠点

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	188,047	194,564	166,951	169,469	21,096	25,095
施設整備による収支	1,750	1,750	3,770	3,764	△2,020	△2,014
その他活動による収支	500	301	19,412	22,176	△18,912	△21,875
当期資金収支	-	-	-	-	164	1,206

- ・収入について：在宅/就労・生活、相談の稼働率増による増収となった。
- ・支出について：人件費率68%・諸経費節約に努めるも当初予算よりもやや超過した。

③2拠点合計

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	496,920	502,410	464,779	462,832	32,141	39,578
施設整備による収支	7,000	7,000	30,885	31,530	△23,885	△24,530
その他活動による収支	16,920	19,221	24,778	28,510	△7,858	△9,289
当期資金収支	-	-	-	-	398	5,759

2. 事業活動計算書の状況

①松崎拠点

単位：千円

	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
サービス活動収益計	302,840	306,945	304,355	320,852	306,892
サービス活動費用計	308,132	303,776	293,039	309,405	327,179
サービス活動増減差額	△5,292	31,69	11,316	11,447	△20,287
経常増減差額	△4,065	4,691	10,876	11,184	△19,564
特別増減差額	13,285	4,612	△3,608	△634	2,002
当期活動増減差額	9,220	9,303	7,268	10,550	△17,562

②オリブ拠点

単位：千円

	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
サービス活動収益計	193,134	188,559	178,546	175,488	178,053
サービス活動費用計	172,088	169,085	171,872	171,730	174,706
サービス活動増減差額	21,046	19,474	6,674	3,758	3,347
経常増減差額	22,290	20,933	7,401	4,457	4,587
特別増減差額	△21,414	△12,992	△3,902	248	248
当期活動増減差額	876	7,941	3,499	4,705	4,835

③2拠点合計

単位：千円

	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
サービス活動収益計	495,974	495,504	482,901	496,340	484,945
サービス活動費用計	480,220	472,861	464,911	481,135	501,885
サービス活動増減差額	15,754	22,643	17,990	15,205	△16,940
経常増減差額	18,225	25,624	18,277	15,641	△14,977
特別増減差額	△8,129	△8,380	△7,510	△386	2,250
当期活動増減差額	10,096	17,244	10,767	15,255	12,727

3. 設備投資、及び積立の状況

- ・松崎拠点：和式トイレを洋式トイレ化工事 799,200円 超低床ベッド6台1,088,640円
ブラストチラー 999,900円
シャトルバス 2,905,000円（リース） 車両タント1,800,000円（リース）
カーテン 1,198,800円（リース）
- ・オリブ拠点：和式トイレを洋式トイレ化工事（マナ）194,400円 利用者向けWi-Fiの設置 199,800円
- ・松崎拠点 オリブ拠点：法人本部への返済 なし

4. 借入金償還の状況

松崎拠点	・医療福祉機構：元金償還	11,250,000円	利子	765,000円	年度末残高	33,750,000円
オリブ拠点	・医療福祉機構：元金償還	2,750,000円	利子	187,000円	年度末残高	8,250,000円
合計	・医療福祉機構：元金償還	14,000,000円	利子	952,000円	年度末残高	42,000,000円

Ⅲ. 対処すべき課題

- ・人材確保：人材発掘のアンテナ作り。高齢になっても就業できる職場。
- ・リスク：職員の心身の変化・感染・事故・苦情・設備備品の劣化等において、小さな事でも状況変化を受け止め、迅速に対応する体制作り。
- ・経営：地域環境変化にあった事業運営と戦略の持ち方。（高齢者福祉中心から障がい者福祉との統合）
職員への行動規範の意識付け。
魅力ある施設に生まれ変わる事。

IV.利用者の状況
1.施設利用の状況

区分		2018年	2017年
入居者数	男	9人	10人
	女	41人	40人
	計	50人	50人
利用日数	男	3,313日	3,253日
	女	14,700日	14,330日
	計	18,013日	17,583日
平均入居期間	男	1年4ヵ月	9ヵ月
	女	2年11ヵ月	2年11ヵ月
	計	2年8ヶ月	2年6ヶ月
最長入居期間	男	2年4ヵ月	2年10ヵ月
	女	16年11ヵ月	15年11ヵ月

区分		2018年	2017年
平均年齢	男	85.8歳	85.6歳
	女	87.8歳	86.4歳
	計	87.4歳	86.2歳
最高年齢	男	93歳	97歳
	女	98歳	98歳
最低年齢	男	72歳	71歳
	女	70歳	46歳
出身地域	圏内	47人	48人
	圏外	1人	1人
	県外	2人	1人
平均介護度		3.7	3.8

区分		2018年	2017年
新入居者数	男	2人	10人
	女	14人	13人
	計	16人	23人
退居者数	男	3人	8人
	女	13人	15人
	計	16人	23人
入院者数	男	4人	11人
	女	6人	23人
	計	10人	34人
入院日数	男	59日	192日
	女	109日	332日
	計	168日	524日

入居者の介護度区分		
区 分	2018年	2017年
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	0人	0人
要介護度2	1人	0人
要介護度3	26人	20人
要介護度4	18人	19人
要介護度5	8人	11人

入居前住居		
区 分	2018年	2017年
自 宅	9人	7人
病 院	3人	3人
老 健 施 設	1人	4人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	2人	1人
他 施 設	1人	7人

退居者内訳		
区 分	2018年	2017年
死 亡	15人	23人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	1人	0人
他施設へ転出	0人	0人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事 業 名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年度	2017年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	310	345	319	312	302	297	325	312	292	295	203	292	3,604人	4,015人
	平 均 人 数	10.3	11.1	10.6	10.1	9.7	9.9	10.5	10.4	9.4	9.5	7.3	9.4	10人	11.人
	開 所 日 数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365人	365日
通所介護事業(一般型)	利用延人数	424	469	408	377	349	330	378	370	316	329	335	328	4,413人	4,479人
	月平均人数	20.2	22.3	19.4	17.1	15.9	15.7	17.2	17.6	15.0	15.7	16.8	15.6	17人	17.5人
	開 所 日 数	21	21	21	22	22	21	22	21	21	21	20	21	254日	256日
訪問介護事業	訪 問 回 数	179	177	167	175	159	155	181	150	161	156	140	147	1,947回	2,372回
	訪 問 延 時 間	126.5	123.0	141.0	149.5	140.0	137.5	158.0	134.5	136.0	133.5	120.5	127.0	1,627時間	1,993.5時間
居宅介護支援事業(予防)	作 成 件 数	19	22	22	22	23	23	24	24	28	27	26	30	290件	101件

V.職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		移動		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤
施 設 長	1		1										0	0
事 務 員	2	1			2	1							0	0
相 談 員	2		1		1								0	0
介護支援専門員	1		1										0	0
直接処遇職員	生活支援員												0	0
	介護職員	22	4	11		11	4		1	1	1	1	0	0
	看護職員	3	1			3	1						0	0
	機能訓練職員	1		1									0	0
栄 養 士	1				1								0	0
調 理 師・員	2	8	1	1	1	7		4		1			0	3
医 師		1		1									0	0
そ の 他	0	7	0	3	0	4	0	2					0	2
小 計		35	22	16	5	19	17	0	7	1	2	1	0	5
在宅事業	通所事業等	4	5	2	2	2	3						0	0
	訪問介護	2	2			2	2		1				0	1
	居宅支援	1		1									0	0
	小 計	7	7	3	2	4	3	0	1	0	0	0	0	1
合 計		42	29	19	7	23	20	0	8	1	2	1	0	6

VI.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	1件	50,000円
遺族	7件	138,000円
在宅一般	0件	0円
業者	5件	377,000円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	13件	565,000円

その他寄付金収入		
寄付等雑収入	件数	寄付金額
寄付物品	0件	0円

* 現員は2019年度3月31日現在 ()は兼務 就退職は2018年度内増減 1名松崎町へ出向

IV. 利用者の状況(2018年度)

施設名 オリブ

1.施設利用の状況

区分		2018年	2017年
入居者数	男	12人	12人
	女	9人	10人
	計	21人	22人
利用日数	男	4,678日	4,290日
	女	3,221日	3,536日
	計	7,899日	7,826日
平均入居期間	男	9年8ヵ月	9年11ヵ月
	女	12年2ヵ月	10年5ヵ月
	計	12年2ヶ月	10年2ヶ月
最長入居期間	男	17年	16年
	女	17年	16年

区分		2018年	2017年
平均年齢	男	49.8歳	53.2歳
	女	52.6歳	52.3歳
	計	51.0歳	52.8歳
最高年齢	男	74歳	76歳
	女	68歳	67歳
最低年齢	男	24歳	31歳
	女	41歳	40歳
出身地域	圏内	20人	21人
	圏外	1人	1人
	県外	0人	0人
平均区分		5.33	5.18

区分		2018年	2017年
新入居者数	男	1人	1人
	女	0人	0人
	計	1人	1人
退居者数	男	1人	0人
	女	1人	1人
	計	2人	1人
入院者数	男	3人	2人
	女	2人	2人
	計	5人	4人
入院日数	男	16日	52日
	女	41日	78日
	計	55日	130日

入居者の障害程度区分		
区 分	2018年	2017年
障害程度区分1	0人	0人
障害程度区分2	0人	0人
50歳未満障害程度区分3	0人	0人
50歳以上障害程度区分3	0人	0人
障害程度区分4	4人	6人
障害程度区分5	6人	6人
障害程度区分6	11人	10人

入居前住居		
区 分	2018年	2017年
自 宅	1人	1人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	0人	0人

退居者内訳		
区 分	2018年	2017年
死 亡	2人	1人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	0人	0人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年	2017年
短期入所生活介護事業	利用延人数	61	62	45	66	71	59	78	81	83	61	48	70	785人	779人
	平均人数	2.0	2.0	1.5	2.1	2.3	2.0	2.5	2.7	2.7	2.0	1.7	2.3	2.1人	2.1人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
生活介護	利用延人数	435	470	461	443	439	431	460	440	418	452	393	405	5,247人	5,374人
	平均人数	20.7	20.4	22.0	19.3	19.1	21.6	20.0	20.0	19.9	19.7	19.7	19.3	20.1人	20.7人
	開所日数	21	23	21	23	23	20	23	22	21	23	20	21	261日	260日
訪問介護事業	訪問回数	50	54	51	57	65	64	68	66	67	69	61	70	742回	495回
	訪問延時間	55	59	58.5	65.5	79.5	81	89.5	86	89	95	93.5	100.5	952.0時間	503.5時間
身体障害者相談事業	利用件数	210	171	209	197	158	245	219	238	172	225	139	206	2,389件	1,722件
ワークショップマナ	利用人数	493	513	527	507	466	474	541	488	459	450	404	491	5,813人	5,528人
	開所日数	21	22	22	22	20	21	23	22	20	20	20	21	254日	253日

V.職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		移動		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤	勤
施設長	(1)												0	0
事務員	(2)	(1)			(2)	(1)							0	0
サービス管理責任者	1		1										0	0
直接処遇職員	生活支援員	7	2	4		3	2		1				-1	0
													0	0
	看護職員	1				1							0	0
	機能訓練職員	1		1									0	0
栄養士	1		1										0	0
調理師・員	(2)	(8)	(1)	(1)	(1)	(7)		(4)	(1)				0	(3)
医師		(1)		(1)									0	0
その他		(7)		(3)		(4)		(2)					0	(2)
小 計	11(5)	2(17)	7(1)	(5)	5(3)	2(12)		(6)	1(1)					(5)
在宅事業	相談支援事業	1(1)	1	(1)		1	1						0	0
	ワークショップマナ	7(1)	2	3(1)		4	2	1	1				1	1
	訪問介護	(3)	(1)			(3)	(1)		(1)					(1)
	小 計	7(5)	2(1)	3(2)		4(3)	2(1)	1	1		1		1	
合 計	18(10)	4(18)	10(3)	(5)	8(6)	4(13)	1	1(6)	1(1)	1			-5	(-6)

* 現員は2018年度3月31日現在 ()は兼務 就退職は2018年度内増減

VI.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	3件	12,000円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	3件	12,000円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 2018 年事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

1. 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」を基盤として、利用者の皆さんが、かけがえのない人生を、最期までその人らしく生き続けることができるよう支援した。
2. 主の祈りをもとに、利用者一人ひとりの穏やかな日々の暮らしと、利用者相互の支えあい、助け合いで、なごやかでのびやかな共同体になりつつある。

B. 運営方針について

1. 伊豆高原十字の園敷地への移転新築及び指定管理から法人直営への事業移管を伊東市へ提案・要望してきたが、理事長、施設長と伊東市との間で話し合いを継続している。また、修繕及び設備更新等の状況を高齢者福祉課へ直接報告し担当課長等にも認識して頂くように努めたが具体的な計画とはなっていない。
2. 兼務職員を増やし、各部署の協力体制を作り、適正配置は進んだが退職者の補充が難しく在宅事業の利用増加を図ることができなかった。
3. 伊豆高原十字の園と連携し、くつろぎの家で事務体制がとれるようにしたが効率化までは図れていない。
4. 伊豆高原十字の園と合同の食事提供を研究し、徐々にではあるが効率化を図ってきたが両施設の職員退職等で止まっている。
5. 1 年を通し、一人ひとりが健康で四季を感じられるよう、作品の製作・展示や行事、食事の提供などに取り組むことができた。
6. 職員のスキルアップを目指し、職員研修を行ってきたが、まだまだ研究していきたい。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 養護老人ホーム
 - 1) 入居者自身が自分ができることを毎日積み重ね、それが他の入居者や平和の杜にとって良い結果になり、その人自身にとっても充実した毎日を過ごすことができた。
 - 2) 身体・精神の変化に気づき対応することが出来たが、医務室の管理者が変わると言うことで施設にとっても大きな問題となり大変苦労した。
 - 3) 入居者から受けた相談に対し、関係部署と連携しながら話し合いを重ねることで、個々のニーズに合った助言や今後についての情報提供を行うことができた。
 - 4) 毎日の食事家庭観のある食事も提供することができた。伊豆高原十字の園との連携にて真空調理で食事も提供することはできたが、そこにとどまってしまった。
 - 5) 伊豆高原十字の園、松崎十字の園との会計の統合については、2019年度よりくつろぎの家2階にて入力し、業務の省力化を行っていく基本体制が作れた。
2. ショートステイ事業
断らないを前提に適切に対応し、生活再建を目的とした支援ができた。
3. 生きがいデイサービス

利用人数、日14名の目標は達成できませんでしたが、四季折々の行事にて季節を感じ、その人らしく生活できるよう支援した。

4. 通所介護事業

1) 平和の杜

利用人数、日14名の目標は達成できませんでしたが、利用者一人ひとりと向き合い、それぞれのニーズにきめ細やかに対応できた。季節を感じられるよう、様々な行事を実施し利用者の満足も得られた。

2) 一碧の杜「くつろぎの家」

利用人数、日9名の目標は達成できませんでしたが、個々のニーズに合わせたサービスの提供ができた。また、地域交流については不定期でしたが交流ができた。

5. 訪問介護事業

在宅は利用者が一名増え、他利用者のサービスも増えた。しかし、特定訪問は夏頃より入院や退居が相次ぎ24名の定員が21名になってしまった。

6. 居宅介護支援事業

利用者件数39件の目標は達成できませんでしたが、本人・家族の意向に沿いそれぞれの話を傾聴し、置かれている状況の理解に努め、様々な負担を軽減し、それぞれが自分らしく過ごし望む生活ができるようにサービスを調整した。

B. 利用実績

	養護 (指定管理)	特定施設	老人短期	生きがいデイ (指定管理)	居宅支援	
利用定員	50 名	24 名	6 名	15 名	39 名	
利用数延数	18,250 名	8,242 名	563 名	3,329 名	371 名	
1 日平均利用者数	50.0 名	22.5 名	1.5 名	13.6 名	30.9 名	
稼働率、稼働指数	100.00%	94.08%	25.70%	91.33%	79.27%	
稼働日数	365 日	365 日	365 日	243 日	12 月	
単価(一人一日当たり)	6,191 円	968 円	3,815 円	6,510 円	11,021 円	
老人福祉事業収入	113,000 千円		2,148 千円	21,675 千円		
介護保険事業収入		7,985 千円			4,089 千円	
職員数(常勤換算)	14.47 名	1.07 名	0.22 名	4.31 名	1.00 名	
	通所介護Ⅰ 平和の杜	通所介護Ⅱ くつろぎの家	(再掲) 特定通所	訪問介護	(再掲) 特定訪問	事業活動収 入 職員数 計
利用定員	15 名	10 名	—	27 名	—	
利用数延数	3,238 名	2,083 名	(1494 名)	34,950 回	(34,507 回)	
1 日平均利用者数	12.5 名	6.7 名	(5.7 名)	95.7 回	(94.5 回)	
稼働率、稼働指数	83.34%	67.12%	—	—	—	
稼働日数	259 日	310 日	(259 日)	365 日	(365 日)	
単価(一人一日当たり)	7,452 円	8,010 円	—	1 回 15 分 865 円		
老人福祉事業収入			—		—	136,823 千円
介護保険事業収入	24,132 千円	16,686 千円		30,263 千円		83,156 千円
職員数(常勤換算)	3.27 名	2.09 名	0.00 名	5.25 名	0.00 名	31.70 名

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況 (単位；千円、未満切捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	229,584	221,768	225,007	207,763	4,577	14,004
施設整備による収支	0	0	0	0	0	0
その他活動による収支	20,416	20,380	24,266	27,250	△3,850	△6,869
当期資金収支					727	7,135

- ・事業活動収入について；通所事業の平和の杜とくつろぎの家は減収となった。訪問事業（特定）は利用者増で増収となったが、拠点としての収入は予算より減収となった。
- ・事業活動支出について；常勤職員の退職に伴う補充ができなかったため人件費が予算より減になった。

2. 事業活動計算書の推移 (単位；千円、未満切捨て)

	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年	2014 年
サービス活動収益計	220,325	224,049	219,217	※1 217,969	209,685
サービス活動費用計	※2 217,969	222,887	218,161	221,852	219,355
サービス活動増減差額	14,176	1,161	1,055	△3,883	△9,669
経常増減差額	14,333	1,536	1,254	△3,693	△9,174
特別増減差額	△3,838	△3,767	△3,300	△104	△2,000
当期活動増減差額	10,495	△2,230	△2,045	△3,797	△11,174

(注)

- ※1 サービス活動収益計；2015 年度 伊東市立養護老人ホーム、短期入所、大池デイサービスセンターの指定管理業務協定 2015 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの基本協定を前回より年額増にて締結する。
- ※2 サービス活動費用計；2018 年と 2017 年度と比べ、常勤職員の退職に伴う補充ができなかったため人件費が大幅な減額となった。

3. 設備投資及び積立の状況

老朽化した設備「給水ポンプ 2 台、暖房が利かない一碧棟居室に家庭用エアコン 8 台、在宅和室に大型エアコン 1 台」を伊東市が更新しました。

4. 借入金の状況

拠点区分間長期借入金 本部拠点から 20,000 千円を支払資金として借り入れ、当初予算 20,000 千円と期末に 3,000 千円を本部拠点へ返済した。

III. 対処すべき課題

1. 施設老朽化に伴い伊東市との設備更新の予算化を依頼する。
2. 居室棟の暖房器具の更新計画をする。
3. 通所事業所くつろぎの家の寒さ対策、駐車場の整備の計画をする。

IV. 利用者の状況

施設名 伊東市立養護老人ホーム

1. 施設利用の状況

区分	2018年	2017年
入居者数	男 12人	14人
	女 32人	35人
	計 44人	49人
利用日数	男 4,619日	4,864日
	女 11,789日	11,477日
	計 16,408日	16,341日
平均入居期間	男 6.3年	5.3年
	女 5.3年	5.1年
	計 5.8年	5.2年
最長入居期間	男 26.1年	25.9年
	女 16.9年	16.1年

区分	2018年	2017年
平均年齢	男 81.8歳	82.2歳
	女 83.2歳	82.6歳
	計 82.5歳	82.4歳
最高年齢	男 93歳	92歳
	女 98歳	97歳
最低年齢	男 70歳	70歳
	女 69歳	68歳
出身地域	圏内 43人	47人
	圏外 1人	0人
平均介護度	2.2	2.3

区分	2018年	2017年
新入居者数	男 2人	1人
	女 2人	6人
	計 4人	7人
退居者数	男 4人	1人
	女 5人	4人
入院者数	男 12人	3人
	女 7人	6人
入院日数	男 449日	431日
	女 235日	720日
	計 684日	1,151日

入居者の介護度区分

区 分	2018年	2017年
自 立	18人	22人
要 支 援	4人	1人
要介護度1	9人	11人
要介護度2	4人	4人
要介護度3	6人	5人
要介護度4	0人	4人
要介護度5	3人	2人

入居前住居

区 分	2018年	2017年
自 宅	4人	7人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	0人	0人

退居者内訳

区 分	2018年	2017年
死 亡	3人	2人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	1人	3人
他施設へ転出	5人	0人
そ の 他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年度	2017年度
短期入所生活介護 (介護保険外)	利用延人数	73	94	60	35	54	51	57	30	46	7	13	43	563人	435人
	平均人数	2.4	3.0	2.0	1.1	1.7	1.7	1.8	1.0	1.5	0.2	0.5	1.4	1.5人	1.2人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	365日
生きがい デイサービス事業	利用延人数	269	284	303	279	307	230	307	275	257	252	267	299	3,329人	3,149人
	平均人数	13.5	14.2	13.8	14.0	14.0	11.5	14.6	13.8	12.9	14.0	14.1	14.2	13.7人	13.0人
	開所日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	18	19	21	243日	243日
通所介護事業 (併 設)	利用延人数	291	298	280	280	271	242	295	285	246	255	250	245	3,238人	3,783人
	平均人数	14.6	13.0	12.7	13.3	11.8	11.5	13.4	13.0	11.7	11.6	12.5	11.1	12.5人	14.6人
	開所日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	22	20	22	259日	259日
訪問介護事業	訪問回数	2833	2869	2859	2789	2816	2546	2876	2871	3252	3109	2965	3165	34,950回	33,811回
	訪問延時間	844	861	855	843	847	768	918	868	968	917	884	946	10,519時	9,958時
居宅介護支援事業	件 数	34	33	32	32	29	31	29	32	29	28	31	31	371件	358件
通所介護事業 (単 独)	利用延人数	196	212	196	191	184	152	195	166	152	157	133	149	2,083人	2353人
	平均人数	7.8	7.9	7.5	7.3	7.1	5.8	7.5	6.4	5.8	6.3	5.5	5.5	6.7人	8人
	開所日数	25	27	26	26	26	26	26	26	26	25	24	27	310日	310日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職 転入		退職 転出		比較増減	
	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤	常 勤	非常 勤
施 設 長	1		1									
事 務 員	1	1	1		1			1		-1		
相 談 員	1(1)	1	1(1)		1							
介護支援専門員	1	(1)			1	(1)						
直接 処遇 職員	生活支援員	4	2		2							
	特定介護員	4	1		3		1			1		
	看護職員	2			2		1		1			
機能訓練職員												
栄 養 士	1				1		1		1			
調 理 師・員	4	3			4	3	3		2		1	
医 師		1		1								
そ の 他												
小 計	19	6	6	1	13	5	5	1	4	1	1	0
在宅 事業	生きがいデイ	2(2)	3(2)	1		1(2)	3(2)					
	通所事業(併)	2(3)	2(3)		(1)	2(2)	2(2)	1	4	2	3	-1
	訪問介護	1(7)		(3)		1(4)						
	居宅支援	1				1						
	通所事業(単)	2(3)	2(2)	1(1)		1(2)	2(1)					
小 計	8	7	2		6	7	1	4	2	3	-1	1
合 計	27	13	8	1	19	12	6	5	6	4	0	1

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	1件	15,000円
遺族	0件	0円
在宅	3件	30,000円
一般	3件	300,000円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	7件	345,000円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

* 現員は2019年度3月31日現在 就退職は2018年度内増減 ()は兼務

軽費老人ホーム（ケアハウス）第2アドナイ館 2018年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人の理念に基づき、前年度同様毎朝近隣牧師、長老の方の協力のもと礼拝をし、精神的（霊的）な糧をいただき、理念の実践に結び付けた。

各事業所にローズンゲンを配布した。根洗荘では聖書の学びを行いキリスト教精神と理念の理解に努めた。

B. 運営方針について

1. 第2アドナイ館グループとして、各事業所らしさを発揮し、施設、地域の利用者のその人らしさを支える。

各事業所のらしさについて事業所ごとで検討した。それぞれの事業所の特徴を表す言葉を作成し、らしさ（強み）を職員が認識し、今後に取り組む姿勢ができた。発揮するまでには至っていないと考えられ継続して取り組む。

特徴を表す言葉

居宅	大切にします。あなたの言葉 あなたの思い
根洗荘	たのしい！皆笑顔になれる場所
ヘルパー	もっと笑顔がみたいから あなたの毎日に寄り添います
のんき	花咲く民家 認知症を支えます
あんき	あんきに來るとあんきになれる あなたの居場所と役割を作ります
第2	自分らしく生き生きとあなたの生きるを支えます。
ぷらすワン	個別で丁寧な支援とトレーニングであなたの前向きな生活を支えます

2. 第2アドナイ館グループとして一体感を強め、チームとして利用者のその人らしさを支える。

第2グループとして認知症、感染症、事故対策、防災、安全運転の委員会を事業所ごとに選出し、研修会を企画する事でそれぞれの顔が見える関係づくりができた。事業所間の違いや取り組みを知りケアや対策に活かした。

3. 第2アドナイ館グループとしてお互いに積極的にコミュニケーションを図り、チーム力を高める。

総合見学会に向け、パンフレット作製や当日に向けて話し合いを行う中で、それぞれの強みや取り組みについてコミュニケーションを積極的にとる事ができた。

来年度に向けても継続して取り組む事でチーム力向上につなげたい。

新たな取り組み 西部地区総合見学会の実施 2018年10月19日に開催した。地域の方やケアマネ合わせて50名の方が来訪して下さった。来年も開催してほしいとの要望が多数寄せられ、継続して開催をしていく事にした。

事業所間交換研修実施 事業所の交換研修を検討したが、一部の事業所で見学研修を行う事に留まった。実施事業所では、他事業所の特徴や違いが分かり、自事業所の特徴や強みを理解できた。

あんき・のんき運営検討 あんき・のんき運営検討委員会を7回開催した。SWOT分析や継続した運営に向けたチェックリストなどを用い今後について検討を重ねた。結果としては、浜松地区の統合に向けた動きに合わせてあんきを認知症ケア・サービスに移行する方向となる。

II 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. ケアハウス

地域に向けた取り組みの継続と交流の機会を作る。

- ・総合見学会にむけて地域の方を迎える事を意識し、施設環境や接遇を整える。

浜松地区として総合見学会を行った。迎えるために意識や環境整備は十分とは言えない。

来年度も継続して取り組む。

- ・交流を進めるために、行事、外出の機会、野点、ミニバザーを継続し行う。

地域交流に向けた行事としてミニバザーは開催し、楽しみにして下さっている方もおり継続していく。野点は、常葉大学のボランティアサークルと行う予定であったが、日程

調整が上手く行かず、施設内の行事となった。

相互理解を深め、利用者のニーズに柔軟に対応できるようなチームをつくる。

- ・ 昨年の介護技術基礎講座を対話型研修として継続し、相互理解とコミュニケーションの向上を図る。

昨年と同様、接遇・介護技術・認知症・虐待防止・緊急時の対応・リスクマネジメントについて行った。実施内容についてアンケートを行い、なるべく職員の知りたい内容になるように取り組んだ。延人数 80 人 平均参加者 13.3 人

2. トレーニング型デイサービス ぷらすワン

「ぷらすワンらしさ」を具体的な取り組みとして表し、ぷらすワンらしさを発信する。

- ・ コンセプトが具体的に感じられる様にチームで協力し、ぷらすワンらしさを更に家族や地域、ケアマネさんに発信する。
広報誌を定期的に配布。生活の質の評価として「EQ-5D」採用し活用。お互いに協力し合う事については課題がある。
- ・ 家族会の開催をする。
開催した。参加家族も増え、継続して開催していく。

3. 十字の園 居宅支援事業所

新たな制度や仕組みに対応できるようチームの再編成を図り、地域における支援を必要としている方々を総合的にサポート出来るように体制を整える。

- ・ 特定事業所加算がとれる事業所として体制を整備する。
管理者の変更により、体制の整備が遅れたが、法人他同事業所と連携し来年度（2019年度）から 加算取得し事業を行う。
- ・ 共生型サービスも視野に入れ勉強会を行う。
2 回勉強会を開催した。
- ・ お互いのケアプランの課題を共有し、効率的な計画作成につなげる。
毎朝ミーティングを実施。毎月ケアプラン・給付等について勉強会を開催。

4. ヘルパーステーションほそえ

在宅生活を安心して継続して頂くために、サービスの統一と質の向上を目指す。

- ・ 身体介護の支援方法について研修会を開催し、利用者ニーズに不安なく答えられる様にする。
延べ 16 人の職員が研修会に参加し、報告研修を事業所内で行った。
- ・ お互いが支援内容の確認が出来るように仕組みをつくる。
業務調整が難しく、5 月に 3 人行ったのみとなった。

5. 認知症対応型通所介護 のんき

地域の方とご家族にのんきを知っていただく。

- ・ 地域行事への参加、機関誌の発行。
機関誌の発行はできなかったが、居宅へは事業所報告を毎月行った。
- ・ ご家族が参加できる行事の企画、家族会の開催
開催した。昨年より 4 名多い参加があった。家族の行事への参加も見られた。

職員も楽しく働ける職場作り。

- ・ 記録を見直し簡略化を図る。役割分担を明確にし、効率化を図る
役割を分けたが、効率化が図れたとは言えない。継続して取り組む。
- ・ 個人目標を立て、年 2 回職員面談を行う。
実施出来た。

6. げんきプロジェクト根洗荘

自立した生活が継続できるよう行事計画を充実し、精神面・体力面をサポートする。

- ・ 居宅支援事業所と連携し、相談会を定期的に開催する。
バザーの際には相談会を行ったが、定期的には開催できなかった。
- ・ 利用者家族も含めた支援として、遠出又は旅行を計画実施する。
家族の参加を呼び掛けたが、参加はなかったが、遠出（久能山）はできた。

7. 小規模多機能型ホーム あんき

地域に向けた行事の充実。地域拠点としての役割推進。個別ケアの充実。

- ・ 地域カフェ、バザー、開放日の実施。
あんきの開催ではなく、地域で開催するサロンに参加した。

バザーは公民館で開催し、好評を得ている。

- ・利用者の複数担当制、担当者会議と記録の充実。
複数担当制とし実施したが、お互いに話し合う時間が十分ではなかった。
- ・聖書を学ぶ機会をつくり、理念の理解を深める。
ローズンゲンの掲示に留まり、学ぶ機会を作れなかった。

8. 公益的取組目標

地域サロン（カフェ）、中学生体験実習、小学生との戦争体験交流

地域サロンは開催できていない。中学生体験実習、小学生との戦争体験交流は実施した。

B. 利用実績

	ケアハウス	地域密着型 特定施設	通所介護 ぷらすワン	認知症通所 介護 のんき	
利用定員	20人	20人	20人	12人	
利用者延数	7300人	6841人	3644人	2270人	
一日平均利用者数	20人	18.7人	15.7人	7.6名	
稼働率、稼働指数	100%	94%	79%	63%	
稼働日数	365日	365日	231日	299日	
単価（一人一日あたり）	7,430円	7,355円	6,568円	12,456円	（根洗荘含む）
総収入（千円）	54,242	52,725	21,793	35,324	
職員数（常勤換算）		17.6人	5.2人	6.2人	（2.94人）

	小規模多機能 あんき	居宅介護支援	訪問介護	人員換算計 事業活動収入 合計	
利用定員（月）	24人	140人	—	—	
利用者延数	（月）226人	1249人	6450人	—	
月平均利用者数	（月）18.8人	（月）104人	（月）537.5人	—	
稼働率、稼働指数	79%	74%	—	—	
稼働日数（月）	365日	12月	257日	—	
単価（一人一日あたり）	（月）229,245円	13,902円	4,673円	—	
総収入（千円）	44,932	16,099	23,488	281,243	
職員数（常勤換算）	10.5人	4人	4.43人	50.8人	

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

（単位；千円未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	261,316	281,243	261,306	259,489	10	21,753
施設整備による収支	0	69,190	10,392	83,487	△10,392	△14,297
その他活動による収支	18,000	19,551	6,186	25,942	11,814	△6,390
当期資金収支					1,432	1,065

・収入について

事業活動収入が予算に対して増加したのは、おもに次の通り。

ヘルパー事業で支援している利用者から 30,000 千円の寄付と、第2アドナイ館利用者遺族から 1,020 千円の寄付があり感謝である。しかし、その金額を差し引くと 250,223 千円となり当初予算を下回っている。

これは、居宅支援事業所の職員を1名増員し、特定事業所加算を年度半ばから算定する予定であったが、体制を整えるのに時間がかかり次年度4月からとなった。また、認知症デイサービスののんきは利用実績を昨年と同様の人数を予定したが、利用者の入れ替わりが多くあり、新規利用は増えたが、身体的変化によって他事業所へ移られる方も多くあった。2月に資料館工事を行ったが、原因不明だが水道が出なくなり8日間事業を休むことになった。根洗荘においても総合事業やサロンが地域で行われる様になり、稼働率が伸びず前年比でマイナスが増加した。

各事業については次の通り。

ケアハウスは、当初予算に対して 1,290 千円増であるが概ね予算の推移となった。

ぷらすワンは、事業計画の目標稼働率 75%に対して 79%となった。予算比 534 千円増

居宅支援事業所は、特定事業所加算の算定が遅れたため、当初予算比 4,270 千円減となった。

ヘルパーは、他事業所の事業閉鎖があり利用者増につながっている。当初予算比 3,174 千円増

のんきは、前年度実績を基に 84%の目標を立てたが 66.7%。長期利用の方が終了し、新規利用者が
増えず利用人数が減少。予算比 11,768 千円減（根洗荘を引いて）

根洗荘は、前年と比べ、平均利用人数が 2.2 人減となり、昨年比 1,840 千円減となった。

あんきは、目標稼働率 75%に対して 79%。当初予算比 1,785 千円増

その他の寄付金については、おもにご利用者、ご遺族、ご家族様からのもの 31,204 千円。

・支出について

人件費は、人事異動等により、前年比 496 千円減。事業費は、355 千円減。事務費は 1,740 千円減。
事務費が減っているのは、研修費が前年比 336 千円減。修繕費が前年比 723 千円減。業務委託費が前年
比 877 千円減

・備品等購入（エアマットレス、ちょうじゅうイェンス、ノートパソコン、シャワーキャリー、サイドテーブル、ナースコール PHS 等）639 千円、

・設備改修等（浄化槽フロートスイッチ、ネットワークハードディスク、非常灯バッテリー、リハビリユニット、ホットパック等）391 千円

・特別増減の部について

固定資産物品 第2アドナイ館 リクライニング車椅子（除却残 1 円）

ジュタンクリーニング機（除却残 1 円）

移動リフト（除却残 1 円）

ヘルパーステーションほそえ 車両（ダイト ムーブキャンパス）購入 1700 千円

小規模多機能ホームあんき エアコン 購入 144 千円

2. 事業活動計算書の状況

	(単位:千円、未満切捨て)				
	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
サービス活動収益計	279,562	252,516	259,660	235,477	120,032
サービス活動費用計	274,897	277,556	277,103	260,519	132,318
サービス活動増減差額	4,664	△ 25,039	△ 17,442	△ 25,041	△ 12,285
経常増減差額	3,726	△ 26,460	△ 18,907	△ 26,544	△ 14,135
特別増減差額	0	△ 81	0	52,591	20,299
当期活動増減差額	3,726	△ 26,542	△ 18,907	26,046	6,164

3. 設備投資及び積立金の状況

設備投資 ヘルパーステーション車両・あんきノートパソコン・エアコン等 2,465 千円

積立金 施設整備等積立金 19,820 千円 修繕積立金 600 千円

4. 借入金及び借入金償還の状況

・法人本部より借入金 18,000 千円。

・福祉医療機構より静岡銀行へ借換。

福祉医療機構 元金償還金 75,480 千円 利子等 2,015 千円（借換費用 845 千円含）

上記借換えにより完済

借換 静岡銀行 元金償還 1,440 千円 利子等 97 千円 年度末残高 67,750 千円

・静岡銀行借入金償還 元金償還 4,102 千円、利子 506 千円、年度末残高 43,082 千円

III. 対処すべき課題

・あんきの認知症デイサービスへの円滑な移行。

・組織変更による役割の明確化と円滑な移行。

・在宅事業の今後の展開について検討。

IV. 利用者の状況

施設名 第2アドナイ館グループ

1.施設利用の状況

区分		2018年	2017年
入居者数	男	2人	2人
	女	18人	18人
	計	20人	20人
利用日数	男	643日	681日
	女	6,250日	6,504日
	計	6,893日	7,185日
平均入居期間	男	1.5年	1.9年
	女	4.7年	5.1年
	計	4.4年	4.7年
最長入居期間	男	2.8年	2.2年
	女	9.8年	8.7年

区分		2018年	2017年
平均年齢	男	98.0歳	91.0歳
	女	88.6歳	90.3歳
	計	89.5歳	90.4歳
最高年齢	男	102歳	92歳
	女	102歳	101歳
最低年齢	男	93歳	90歳
	女	73歳	72歳
出身地域	圏内	20人	20人
	圏外	0人	0人
	県外	0人	0人
平均介護度		2.65	2.60

区分		2018年	2017年
入居者数	男	2人	0人
	女	18人	0人
	計	20人	0人
退居者数	男	2人	0人
	女	4人	1人
	計	6人	1人
入院者数	男	3人	0人
	女	6人	4人
	計	10人	4人
入院日数	男	70日	0日
	女	131日	66日
	計	201日	66日

入居者の介護度区分

区 分	2018年	2017年
自 立	0人	0人
要 支 援	0人	0人
要介護度1	7人	8人
要介護度2	3人	2人
要介護度3	3人	2人
要介護度4	4人	6人
要介護度5	3人	2人

入居前住居

区 分	2018年	2017年
自 宅	4人	0人
病 院	0人	0人
老 健 施 設	0人	0人
療 養 型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他 施 設	2人	0人
合 計	6人	0人

退居者内訳

区 分	2018年	2017年
死 亡	5人	0人
帰 宅	0人	0人
病院へ転出	1人	0人
他施設へ転出	0人	1人
そ の 他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

通所介護事業（地域密着型）	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年	2017年
	利 用 述 人	308	348	318	291	323	275	326	316	281	295	268	295	3,644人	3,457人
	月 平 均 人	16.6	16.6	16.7	14.2	15.4	15.3	16.3	15.8	15.6	16.4	14.9	15.5	15.8人	14.9人
通所介護事業（認知症）	開 所 日 数	18.5	21.0	19.0	20.5	21.0	18.0	20.0	20.0	18.0	18.0	18.0	19.0	231.0日	231.5日
	利 用 述 人	173	192	197	194	201	198	217	219	186	175	124	194	2,270人	2,482人
	月 平 均 人	6.9	7.1	7.6	7.5	7.4	7.9	8.3	8.4	7.2	7.3	7.8	7.5	7.6人	8.0人
訪問介護事業所	開 所 日 数	25.0	27.0	26.0	26.0	27.0	25.0	26.0	26.0	26.0	24.0	16.0	26.0	300日	310日
	訪問延回	537	542	545	589	591	527	587	553	529	482	445	523	6,450回	5,978回
	訪問延時	445	442	436	478	494	439	495	466	446	407	384	438	5,370時	4,984時
居宅介護支援事業所	月作成件	125	134	139	136	135	141	136	142	137	144	140	144	1,653件	1,428件
小規模多機能事業所	登録人数	18	20	19	19	19	19	18	19	20	18	17	20	226人	219人
在宅支援自主事業	利 用 述 人	302	343	348	309	362	313	326	311	289	280	280	293	3,756人	4,312人
	月 平 均 人	15.1	15.6	16.6	15.5	15.7	16.5	14.8	14.8	14.5	14.0	14.0	14.0	15.1人	17.2人
	開 所 日 数	20.0	22.0	21.0	20.0	23.0	19.0	22.0	21.0	20.0	20.0	20.0	21.0	249日	250日

予防・対象者含む

V職員の状況

職種		配置		男		女		就職異動入		退職異動出		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長		1		1									
事務員		2	1	1	1	1							
生活相談員		1		1									
特定施設入居者生活介護	介護支援専門員	1				1							
	介護職員	7	2	1		6	2	1	1	1			1
	看護職員	1				1							
	機能訓練職員	1				1				1		(1)	
栄養士		1				1							
調理師・員													
歯科衛生士			1				1						
その他			2				2						
小 計		15	6	4	1	11	5	1	1	2	0	(1)	1
在宅部門	地域密着通	3	3	1		2	3	1		2	1	(1)	1
	認知症通所	3	8	1	2	2	6				1		(1)
	小規模ホーム	7	8	2	1	5	7	1		1			
	居宅支援	4		2		2		1				1	
	訪問介護	2	7			2	7		1				1
	保険外通所		6		1		5				1		(1)
小 計		19	32	6	4	13	28	3	1	3	3	0	0
合 計		34	38	10	5	24	33	4	2	5	3	(1)	1

* 現員は2019年3月31日 :就退職は2018年度内増減

VI寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	1件	104,000円
入居者家族	4件	50,000円
遺族	2件	1,020,000円
在宅	1件	30,000,000円
一般	1件	10,000円
業者	0件	0円
職員	2件	20,000円
役員	0件	0円
合計	11件	31,204,000円

その他寄付金収入

寄付等雑収入		
寄付物品		